

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.182

2008年7月

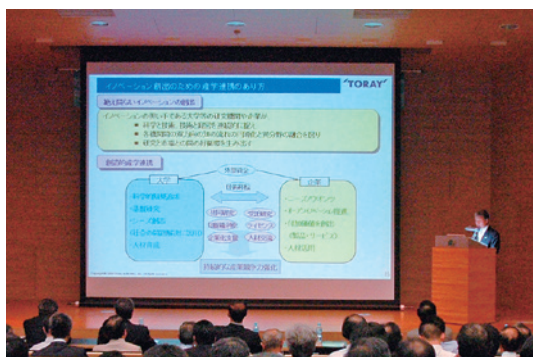
第2回学術シンポジウム 学術と「産学連携」～産学連携とひとづくり～ を開催



目次

●ニュース	
第2回学術シンポジウム	3
学術と「産学連携」～産学連携とひとつくり～を開催	
平成20年度グローバルCOEプログラムに採択される	4
平成20年度科学技術振興調整費新規課題に採択される	4
平成19年度施設整備事業を平野総長らが視察	5
三井住友銀行と産学連携推進に関する協定を締結	5
久保文部科学省審議官が本学を視察	6
宮田理事がタイを訪問、チュラロンコン大学新学長と懇談	6
第4回大学施設マネジメント研究会を開催	7
第38回、第39回防災アカデミーを開催	7
第19回経営協議会を開催	8
平成20年度春季新入留学生歓迎懇談会を開催	8
春季キャンパスクリーンを実施	9
第49回名大祭において発生した食中毒について（お詫び）	9
●知の先端	
ロドプシン群の構造解析	10
神山 勉（大学院理学研究科教授）	
グラファイト（黒鉛）から半導体を創る	12
一カーボンナノウォールの電気伝導制御に成功―	
堀 勝（大学院工学研究科教授）	
●部局ニュース	
国立大学法人八大学文学部長会議を開催	14
地球生命圏研究機構（SELIS）キックオフ式典と記念講演会を挙行	14
2008年度第1回、第2回農学国際教育協力研究センターオープンセミナーを開催	15
リニューアルオープン記念式典及び第22回博物館コンサートを開催	15
中学生のためのネイチャーウォッチングを開催	16
中日新聞こどもタイムズ「わくわく探検」のこども記者が博物館を取材	16
博物館野外観察園の見学会を開催	17
からくり人形の実演および講演会を開催	17
第30回附属図書館研究開発室オープンレクチャーを開催	18
●表敬訪問された方々	19
●新任部局長の紹介	19
●受賞者一覧	20
●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成20年5月16日～6月15日	23
●INFORMATION	
平成20年度名古屋大学公開講座	26
●イベントカレンダー	28
●ちょっと名大史	
キタン会（経済学部同窓会）旧蔵資料	32

第2回学術シンポジウム 学術と「産学連携」～産学連携とひとつくり～を開催



第2回学術シンポジウム 学術と「産学連携」～産学連携とひとづくり～が、6月13日(金)、学術研究フォーラム、日本学術振興会との共催により野依記念学術交流館カンファレンスホールにおいて開催されました。

このシンポジウムは、産学連携の重要性・必要性が叫ばれる反面、「死の谷」をはじめとする難しさや問題、また大学の学術研究そのものに与える微妙な影響等について、正面から議論する機会がこれまでほとんどなかった、という問題意識から企画されたものです。

当日は、石井紫郎日本学術振興会学術システム研究センター相談役による総合司会のもと、最初に小野元之日本学術振興会理事長から、「資源のない日本の将来を決めるのは人材の有効な活用である」と開会のあいさつがありました。

基調講演では、最初に、榊原定征東レ株式会社代表取締役社長が、我が国の産学連携の現状を紹介しながら人材育成の課題について述べ、人材育成において特に重要と考える大学の4つの役割として、①世界に通用する知的プロフェSSIONALの育成、②世界に通用する教育の実現、③研究拠点にお

ける人材育成の強化、④次世代の人材育成、を挙げました。

続いて、平野総長が、本学における人材育成の取り組みについて、具体例を交えながら紹介しました。心の豊かさを実感できるイノベーションがあるべきであり、それを導く若者を育てることが大学の重要な責任である。そのためには、まず専門分野を十分に確立させたうえで、必要な能力として、異分野の物の見方・考え方を理解する能力、異分野への好奇心、問題設定・解決能力を備えた人を育てなければならないとの考えを示しました。

引き続き行われたパネルディスカッションでは、阿部博之科学技術振興機構顧問、小野木工学研究科長、内山田竹志トヨタ自動車株式会社取締役副社長、野々山幸夫株式会社ミツカンビジテック代表取締役社長、吉田慎一三菱重工株式会社執行役員がパネリストとして参加しました。

産業界からは、「課題解決能力を持つ人材が必要であり、大学で課題解決のためのケーススタディの授業を実施してほしい」、また、大学側からは、「人材育成のための産学連携として、失敗事例も含め学習体験のための良い題材

を産業界から提供してほしい」との意見があり、パネルディスカッションの最後には、総長から、「大学内、企業でチームを組んでコンソーシアム方式がとれることが大切で、そこから学ぶことは大変多い。基礎の段階から同じ土俵で、互いを尊重し合って動きたい」とコメントがありました。

おわりに、山本理事から閉会のあいさつがあり、参加者へのお礼を述べるとともに、「健全な産学連携を発展させていくためには、このシンポジウムのように、絶えず産学両者が本質的議論を通じて最適解を求めていくことが重要である」と話し、盛況のうちに閉会しました。

会場は、幅広い方面からの約200名の参加者で埋まり、講演やパネルディスカッションを真剣なまなざしで聞き入る様子が見られ、産学官連携や「ものづくり」、「ひとづくり」への関心の高さが伺われました。

- | | | |
|---|---|--------------------|
| 1 | 3 | 1 開会のあいさつをする小野理事長 |
| 2 | 4 | 2 基調講演を行う榊原代表取締役社長 |
| | | 3 基調講演を行う平野総長 |
| | | 4 パネルディスカッションの様子 |

平成20年度グローバル COE プログラムに採択される

平成20年度グローバル COE プログラムの選考結果が公表され、本学においては、申請した11件のうち、3件のプログラムが採択されました。

同プログラムは、文部科学省が平成19年度から実施しており、我が国の大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、世界最高水準の研究基盤のもとで世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した研究教育拠点を形成し、もって、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的としています。

採択結果について、平野総長は、「採択された拠点において、同プログラムの目的にあるように国際的に卓越した研究を展開し、世界をリードする創造的な若手研究者を育成することに邁進することを期待するとともに、支援する。また、採択されなかった拠点については、後日出される、グローバル COE プログラム委員会の不採択理由を待ち検証し、今後の教育・研究の更なる発展への糧としたい。なお、本学の申請に係る個々の研究者は世界レベルの研究水準と考えている。今後、本学は我が国を代表する研究重点化大学の一つとして世界をリードする研究及び世界で活躍する若手研究者を輩出する研究教育体制の構築に向けて

更なる努力を続けていく所存である。」とコメントしました。

なお、申請は、全体で315件（130校）あり、5分野68件（29校）が採択され、全体の採択率は21.6%でした。

【分野：医学系】（採択件数14/申請件数72）
プログラム：機能分子医学への神経疾患・腫瘍の融合拠点

拠点リーダー：祖父江 元 教授（大学院医学系研究科）
中核となる専攻：医学系研究科細胞情報医学専攻

【分野：数学、物理学、地球科学】（採択件数14/申請件数36）

プログラム：宇宙基礎原理の探究 - 素粒子から太陽系、宇宙に至る包括的理解 -

拠点リーダー：杉山 直 教授（大学院理学研究科）
中核となる専攻：理学研究科素粒子宇宙物理学専攻

【分野：機械、土木、建築、その他工学】（採択件数14/申請件数48）

プログラム：マイクロ・ナノメカトロニクス教育研究拠点

拠点リーダー：福田 敏男 教授（大学院工学研究科）
中核となる専攻：工学研究科マイクロ・ナノシステム工学専攻

平成20年度科学技術振興調整費新規課題に採択される

文部科学省において公募されていた「平成20年度科学技術振興調整費新規課題」が選定され、本学から2件が採択されました。科学技術振興調整費は、総合科学技術会議の方針に沿って文部科学省が運用を行う、政策誘導型の競争的資金として、以下の1～3の事項に活用することとなっています。

1. 優れた成果の創出・活用のための科学技術システムの改革
2. 将来性が見込まれる分野・領域への戦略的対応等
3. 科学技術活動の国際化の推進

【イノベーション創出若手研究人材養成】
（採択件数10/提案件数26）

イノベーション創出の中核となる若手研究人材（博士後期課程の学生や博士号取得後5年間程度までの研究者）が、狭い学問分野の専門能力だけでなく、国際的な幅広い視野や産業界などの実社会のニーズを踏まえた発想を身に付けるシステムを機関として構築する取り組みに対し支援する。

提案課題名：社会貢献若手人材育成プログラム
代表者：平野 眞一 総長

【戦略的環境リーダー育成拠点形成】
（採択件数5/提案件数19）

イノベーション25に掲げる「世界に開かれた大学づくり」と「世界の環境リーダーの育成」の一環として、また「科学技術外交の強化」に掲げる「世界の環境リーダーの育成」を推進するため、途上国における環境問題の解決に向けたリーダーシップを発揮する人材（環境リーダー）を育成する拠点を形成する。

提案課題名：名古屋大学国際環境人材育成拠点形成
代表者：平野 眞一 総長

平成19年度施設整備事業を平野総長らが視察

5月21日(水)、平成19年度中に完成した施設整備事業を、平野総長、杉浦理事、木村監事が視察しました。

一行は、東山キャンパスにおいて、耐震補強を含む全面的な改修工事が行われた建物[全学教育棟、工学部3号館、理学部C・D館]、耐震改修工事が行われた建物[古川記念館、工学部6号館、地球水循環研究センター]、鶴舞キャン



全学教育棟の視察の様子

パスにおいて、基礎棟の建て替え分として新築された医学部校舎2号館、キャンパス周囲に整備された緑道・広場・地区幹線道路、また、大幸キャンパスにおいて、昭和13年に三菱重工業株式会社の社屋として建設され、本学で最も古い建物となった医学部保健学科本館の建て替え分として新築された保健学科校舎、そして耐震補強を含む改修工事が行われた大幸体育館を視察し、関係部局の事業責任者らと意見交換を行いました。

文部科学省では、平成18年度からの「第2次国立大学等施設緊急整備5か年計画」において、平成22年までの5か年で、老朽再生、狭隘解消、附属病院再生のために全国で約540万 m^2 の整備を目標としています。この計画に基づき、本学においては、平成19年度は約4万6千 m^2 の施設整備を行いました。

今年度は、引き続き全学教育棟、工学部5号館・新5号館、理学部E・F・新D館の改修、超高圧電子顕微鏡室の改築、附属病院外来診療棟の新築等の整備を行う予定です。

三井住友銀行と産学連携推進に関する協定を締結

6月20日(金)、本学と三井住友銀行は、産学連携推進に関する協定を締結しました。

協定締結式は、産学官連携推進本部が設置されている赤崎記念研究館において行われ、本学から宮田理事・産学官連携推進本部長が、三井住友銀行から寺本忠彦法人マーケティング部長、廣瀬壽美名古屋法人営業第一部長らが出席



協定書を取り交わす関係者（左から宮田理事、寺本部長、廣瀬部長）

し、連携への期待を確認しあった後、協定書を取り交わしました。

同行の取引先企業は全国に存在しており、製造業を中心に、技術的な課題を抱える、あるいは新商品の開発に悩む企業は少なくありません。今回の協定締結により、本学が擁する多数の研究者とその研究シーズ、および知的財産等を有効に活用し、企業の技術的な課題の解決のために、細かく対応していける体制・ネットワークの構築、すなわち、“大学と銀行の連携による企業支援ネットワークの構築”を目指します。

本学が、メガバンクと産学連携の分野で提携するのは今回が初めてであり、同行を介して大企業から中小企業に及ぶ裾野の広い共同研究が実現することが期待されます。

久保文部科学省審議官が本学を視察

久保公人文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当）が、6月11日（水）、本学を訪問し、法政国際教育協力研究センターを視察しました。

久保審議官は、CALE フォーラムにおいて、大屋雄裕法学研究科准教授から、ウズベキスタン、モンゴル、ベトナムに設立した日本法教育センターと今年度設立を予定しているカンボジアの同センターについて説明を受け、引き続きモンゴル及びベトナムの同センターとテレビ会議シ

ステムを繋いで、現地の学生、教員と意見交換を行いました。久保審議官は、現地の学生たちに期待と激励の言葉を贈り、学生たちも期待に応えられるよう努力することを誓いました。また、CALE フォーラムには留学生約20名が陪席して様子を見守り、久保審議官は集まった留学生とも意見交換を行い、留学生の生の声に耳を傾けました。

久保審議官は、アジア諸国に対する日本による法整備支援について、改めてその重要性を実感された様子でした。



CALE センター長での懇談（右から3人目が久保審議官）



CALE フォーラムにおいて意見交換を行う久保審議官ら

宮田理事がタイを訪問、チュラロンコン大学新学長と懇談

宮田理事は、5月14日（水）から16日（金）までの間、タイを訪問し、チュラロンコン大学において、本年4月に同大学長に就任したピロム・カモンラッタナクン教授と懇談しました。

チュラロンコン大学と本学とは、1992年に大学間学術交流協定を締結以来、教員、学生、事務職員などの交流を活発に進めてきており、国際学術コンソーシアム（AC21）の運営委員会メンバー校（8大学）の一つでもあります。

宮田理事とピロム学長は、両大学間の更なる交流の推

進、研究・教育面での相互協力、産学官連携などについて今後も積極的に行っていくことで合意しました。また、チュラロンコン大学側から、本年7月27日（日）～30日（水）に開催される AC21国際フォーラムに参加を予定しているクア・ウォンブンスイン副学長が同席し、同フォーラムの成功および今後の AC21の活動に、運営委員会のメンバーとして貢献していきたい旨の発言がありました。

なお、一行は、学長訪問に先立ち同大学工学部を訪問しました。同学部からは本学工学研究科が今年度開設した自動車工学サマープログラム（NUSIP）について熱心な問合せがあり、来年度には学生を派遣する計画であることや、工学関係の教員・学生の連携、共同研究について、積極的な提案があり、今後の交流を一層推進することで合意しました。



会談し、記念品を交換する宮田理事（左）とピロム・カモンラッタナクン学長（右）



チュラロンコン大学工学部にて

第4回大学施設マネジメント研究会を開催

第4回大学施設マネジメント研究会が、5月27日(火)、野依記念学術交流館において開催されました。

研究会では、杉浦理事のあいさつに引き続き、野中ともよ NPO 法人ガイア・イニシアティブ代表による「ガイア・イニシアティブ -地球環境対応と日本文化-」、林環境学研究所長による「地域戦略から見た大学間の国際・地域内連携と、必要な仕掛」の二題の講演が行われました。

野中氏の講演では、これからの大学は、どのような人を



講演を行う野中氏



パネルディスカッションの様子

創るのか、そのためにどのような施設をつくるのかという問いかけがあり、地球環境課題への取り組みに価値を見出す大学施設マネジメントのあり方についての提案がありました。林研究科長からは、これからの大学間競争に打ち勝つためには、大学間の国際連携とともに、地域力としての大学連携が不可欠であるとの指摘がありました。

次に行われたパネルディスカッション「国公立大学連携の地域コンソーシアムについて -大学施設マネジメント研究会の活動と今後-」では、谷口 元 施設計画推進室長をモデレーターに、2名の講演者に加えて、梶山正弘 梶山女学園大学理事長、三浦春政 三重大学理事、山口博行 施設管理部長が演壇に上がり、地域連携による大学施設マネジメントのあり方について活発な議論を交わしました。

今回の研究会には、大学・官庁・民間企業から100名を超える参加者があり、施設マネジメントに対する関心の高さが伺われました。

今後も継続して研究会を開催し、施設マネジメントの諸課題について、議論を進めていくこととしています。

第38回、第39回防災アカデミーを開催

第38回防災アカデミーが、4月21日(月)、環境総合館レクチャーホールにおいて、災害対策室主催のもと開催されました。今回は「地域防災の実践事例に学ぶ」という観点から、大石昇司 北海道札幌市南区澄川地区連合会会長が、「地域ぐるみで守る！～防災まちづくり大賞を受賞して～」と題して講演を行いました。

大石氏は、地域の防災や防犯に関する様々な取り組みを有機的に結びつけた活動を展開し、平成15年度には防災まちづくり大賞を受賞するなど、その存在が全国に知られています。今回の講演では、地域における防災への取り組み



第38回防災アカデミーの様子

をいかに持続可能なものにするのかに焦点をあて、日常的な防犯活動と防災活動を連動させる具体例などが詳しく紹介されました。参加した一般市民からは、「最終的な形を思い描きながら取り組まれた経緯などが自分の活動を進める上でも参考になった」という感想が聞かれました。

続いて、5月29日(木)には、第39回防災アカデミーが開催され、柴田いづみ 滋賀県立大学教授による「まちが崩壊する前に」と題する講演が行われました。

柴田教授は防災・耐震・まちづくりフォーラム実行委員長を務めるなど地域の防災・耐震化・まちづくりの活動を積極的に進めています。また建築家として多くの建物の設計に携わり、高齢者や子供に配慮しコミュニケーションを育てるための建築を進めています。今回の講演では地域協働によるまちづくりから防災への展開などについて豊富な事例をふまえた話がなされ、94名の参加者にとって大変有意義な講演となりました。



講演する柴田滋賀県立大学教授

第19回経営協議会を開催

第19回経営協議会が、6月14日(土)、名古屋市内のホテルを会場として開催されました。

会議では、平野総長のあいさつの後、本学を取り巻く最近の主な動向として、附属病院の現状と課題について、松尾附属病院長から説明が行われました。

次いで、中期目標期間評価、法科大学院認証評価（本評



経営協議会の様子

価)、緊急医師確保対策に基づく医学部医学科の収容定員増、平成19年度決算、平成21年度概算要求について、各担当理事、副総長から説明が行われ、審議の結果、了承されました。

また、高橋理事から、外部資金の受入状況、平成19年度施設整備状況、本学学部・大学院の進路状況、本学大学院の収容定員の充足率について報告が行われました。

外部委員からは、各種評価の在り方、法科大学院修了後の進路状況等について、貴重なご意見が多数寄せられました。

平成20年度春季新入留学生歓迎懇談会を開催

平成20年度春季新入留学生歓迎懇談会が、6月2日(月)、フレンドリー南部において開催されました。この会は、今後の留学生在活が実のあるものになるよう激励し、留学生と留学生関係教職員との懇談を通して一層の相互理解・交流を深めることを目的としています。当日は、新入留学生、教職員など約300名の参加がありました。

最初に平野総長から歓迎と激励のあいさつがあり、これを受け、新入留学生を代表して、理学部の布和巴図さん(中

国)及び情報科学研究科の金 周慧さん(韓国)が、日本での留学について抱負を述べました。続いて、宮田副総長の発声により乾杯が行われた後、新入留学生が総長や教職員を囲んで、にこやかに歓談したり、記念撮影したりする姿があちらこちらで見られました。懇談会は、石田留学生センター長の閉会のあいさつの後、盛況のうちに終了しました。



懇談会の様子



あいさつする平野総長

春季キャンパスクリーンを実施



学内清掃に汗を流す職員

大学構内環境美化運動「キャンパスクリーンウィーク」が、6月9日(月)から13日(金)まで、全学の教職員及び学生の協力を得て実施されました。

これは、6月の環境月間に環境保全に対する関心を高めるために、平成4年から毎年実施されているものです。この取り組みでは、名古屋市の一構成員として、本学境界の外周清掃も併せて行い、環境美化に努めています。

本部では、6月11日(水)の午後、山口施設管理部長のあいさつの後、約90名の職員が、一斉に東山キャンパス構内及び周辺の市道に分かれて、空き缶・紙くず等の除去、雑草等の刈り取り、不要な立看板・ビラ等の撤去などを行い、爽やかな汗を流しました。

第49回名大祭において発生した食中毒について（お詫び）

第49回名大祭（6月5日～6月8日）において、6月7日(土)、模擬店が提供したクレープを原因とする集団食中毒（原因物質：黄色ブドウ球菌）が発生し、翌8日(日)の名大祭を中止としました。

食中毒という重大な事故を発生させ、医療機関で治療を受けられた方々をはじめ、来場者及び関係の皆様には、多大な苦痛とご迷惑をおかけいたしましたことを心からお詫び申し上げます。

次回以降の名大祭については、本件に関する大学の責任を厳粛に受け止め、学生の自発的活動は尊重しつつも、運営については、模擬店のあり方を含め慎重に対応してまいります。

今後は、二度とこのような事故を起こすことのないよう万全を期してまいりますことをお誓いし、関係各位にお詫び申し上げます。

ロドプシン群の構造解析

神山 勉 大学院理学研究科教授

「物体を見る」とはどういうことなのか？ この問いかけは古くからありました。古代ギリシャの哲学者レウキッポスは、物体から非常に薄い層（似像）が連続的に剥がれて目にやってくると考え、次の問いかけをしています。

- 1) 似像とは何から作られているのか？
- 2) 似像はどのようにして目に入るのか？
- 3) 外にある物体がどうやって「我々の心の中に入る」のか？

1番目と2番目の問いかけは、「光とは何か？」という問題に置き換えられ、その解明に向けた取り組みの中で現代物理学の礎が築かれてきました。では、3番目の問いかけについてはどうでしょう？

ヒトの網膜には、5種類の光センサーがあり、その中にもっとも多量に存在する膜蛋白質がロドプシンと呼ばれる光受容蛋白質です。これは明暗を検知する役割を担い、薄明かりの中で物体を識別するのに寄与しています。この他に、赤、緑、青の光を検知する3種類の光受容蛋白質があり、それらを発現する3種類の錐体細胞からの出力信号は視覚的イメージ化経路に繋がっています。さらに、5種類目の光センサーであるメラノプシンが最近見つかりました。これを発現する細胞は非視覚的経路に繋がっていて、心拍数などを制御する自律神経系に作用し、また、情動性反応、さらには生体時計にも関与することが分かっています。

これらロドプシン群に属する蛋白質の構造は互いに似ていて、脂質膜を7回貫通する形で折りたたまれて存在します。また、ビタミンAの誘導体であるレチナールを含んでいる点でも共通しています。ロドプシン中のレチナールが光を吸収すると、「くの字」に曲がっていたレチナールが直

線状の形になり、これが引き金になり蛋白質全体の構造変化が惹起され、そして、興奮状態のロドプシンはG蛋白質と呼ばれる特殊な蛋白質を活性化し、細胞の興奮へと導きます。しかし、メラノプシンを含む光受容細胞では異なる種類のG蛋白質が活性化され、細胞内の信号増幅機構にも大きな違いがあると考えられています。

さて、私の研究グループではロドプシン群の結晶構造解析を進めてきましたが、村上 緑助教の努力により、イカの目玉から精製したロドプシンの立体構造（図1）を高分解能で決定するのに成功しました。この研究成果は私たちが考えていたより大きなインパクトを秘めていたようです。イカロドプシンはヒトのメラノプシンと多くの共通点を有するのであるから、構造データの重要性を詳細に記述すべきと論文審査員から指摘を受け、Nature への投稿論文をアーティクル論文として書き改める段階で、「イカは物体をどのようにし

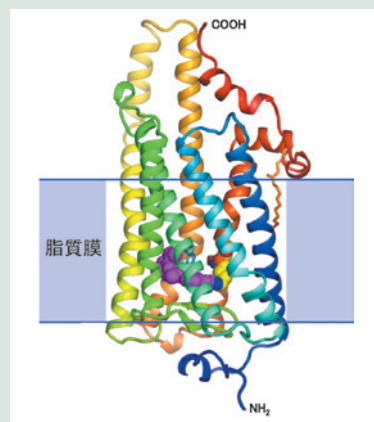


図1. イカロドプシンの立体構造。膜を貫通する7本のヘリックス構造のうち、N末端から数えて5番目と6番目のヘリックスが細胞質側に突き出しているのが特徴。レチナールは細胞外側近くで膜面に平行に存在する。

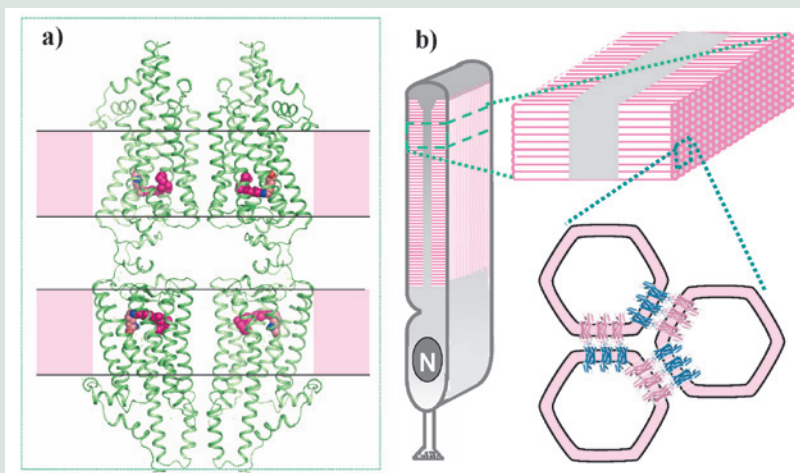


図2. a) イカロドプシンの4量体構造。膜面内の2量体が隣の膜にある2量体と強く相互作用している。b) イカの光受容細胞の構造。細胞表面から微絨毛という細いチューブ構造が伸びていて、これが六方格子状に並んでいる。イカロドプシンは微絨毛に偏在し、イカロドプシンの4量体構造が微絨毛の超高次構造の形成に関与している。

て認識するのか？」について考察しましたので、本稿ではそれについて紹介します。

イカの視覚細胞は一種類しか知られておらず、モノクロで物体を見ていることになります。しかし、イカは好物であるほとんど透明なクラゲを捕食するため、何か特殊な目を持っていると思われます。実際にイカの行動学の研究では、偏光面の検知能力があると予測されています。クラゲの体表面で反射した光は偏光しているため、イカはその検知能力を有することで、クラゲを容易に捕らえることができると考えられます。イカロドプシンの結晶構造を分析しますと、上述の推論に対して確固たる根拠を見出すことができます。すなわち、結晶中に見出された4量体構造(図2a)から、光受容細胞表面に見られる微絨毛の超高次構造(図2b)の形成機構、さらには、この超高次構造の中でレチナルの向きが特定方向に揃えられる機構について、論理的な説明を導くことができます。電子顕微鏡観察により、隣の光受容細胞で

は微絨毛の向きが90度ずれていることが示されていますので、隣り合う光受容体からの出力信号の差を読み取る仕掛けを想定すれば、偏光面を高感度で検知できるシステムを構築できるはずです。

蛇足になりますが、高度好塩菌という古細菌は光の色を感知するための2種類の光センサーを備えています。これらの構造も、7本の膜貫通ヘリックスから成り、大まかに言えば、イカロドプシンの構造と似ており、光信号を検知する能力を獲得することは生命誕生直後の段階で既に重要事項だったのであろうと推察されます。私たちの脳にある神経伝達物質やホルモンなどの受容体もイカロドプシンと共通した情報伝達経路を活性化しますので、これらの受容体の原型はイカロドプシンに似た構造を持っていたのかもしれませんが、ちなみに、ヒトのロドプシンは、高感度の光検知を実現させるために特化した光受容体であり、進化的に言うとは非常に新しいものであるという説が報告されています。

1979年 名古屋大学理学研究科物理学専攻博士課程満了、理学博士
日本学術振興会奨励研究員
1980年 理化学研究所流動研究員
1982年 カリフォルニア大学心臓血管研究所博士研究員
1984年 理化学研究所研究員
1994年 名古屋大学大学院理学研究科教授
専 門 生物物理学
研究室ホームページ <http://bio.phys.nagoya-u.ac.jp/>

こうやま つとむ



グラファイト（黒鉛）から半導体を創る —カーボンナノウォールの電気伝導制御に成功—

堀 勝 大学院工学研究科教授

ナノカーボン材料は、これまでフラーレンやカーボンナノチューブといった構造体が発見され、光・電子素子をはじめとして多くの応用研究が行なわれています。その一方、古くから黒鉛として知られているグラファイトを半導体素子へ応用する研究はほとんど注目されていませんでした。グラファイト自体は、導電性の材料であり、多数の薄いシートが弱い結合で結ばれた積層構造のため、脆弱で剥がれやすく、基本的に機能性素子などへの応用が困難でした。近年、二次元に広がる平面的な構造を有するカーボンナノウォール（CNW）あるいはカーボンナノシートと呼ばれる新しい形態のカーボンナノ構造体が発見されました。これらは、図1の模式図に示されるように、厚さ数nmから数10nmの二次元に広がるシート状のナノ構造物が基板に対してほぼ垂直に立つ形で成長しています。これらの構造体は、メタン等の炭素源ガスを用いたプラズマ化学気相堆積法（chemical vapor deposition, CVD）やグラファイトターゲットを用いたスパッタリングなど

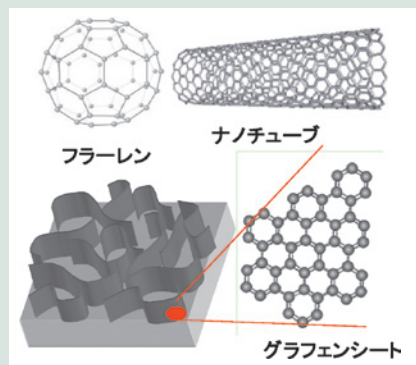


図1 種々のカーボンナノ構造体の模式図。ゼロ次元：サーカーボール状フラーレン、一次元：カーボンナノチューブ、二次元：グラフェンシート（CNW）に分類される。

により作製することができます。我々は、プラズマを用いてCNWの微細構造を制御できる方法を開発しました。プラズマの中には、多様なラジカルと呼ばれる活性種が存在し、これらが基板と反応して薄膜が合成されます。例えば、ダイヤモンド薄膜の製造には、 CH_3 等の炭素を含んだラジカルと水素原子が必要ですが、ダイヤモンド形成を阻害するような炭素原子もプラズマ中には存在します。したがって、役割や性質の異なる複数のラジカル種の中から、重要なラジカルだけを効率良く生成して制御するのは容易なことではありませんでした。我々は、「ラジカル注入法」という新しいラジカル制御法を発明し、ラジカルを制御できるプラズマ反応装置を開発しました。図2にこの装置の概観を示します。種類の異なるラジカルを生成するプラズマ発生装置を縦に並べて、 CF_3

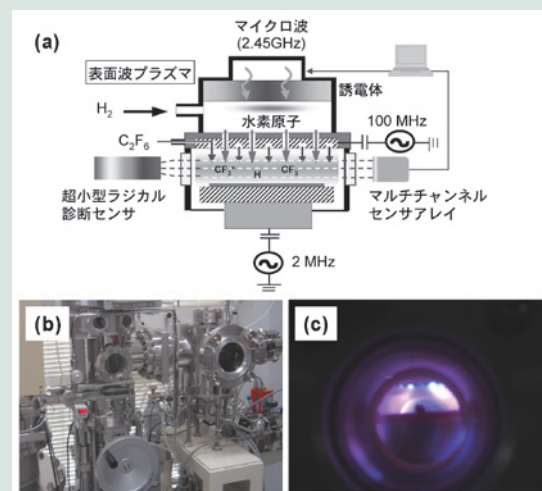


図2 (a) ラジカル注入法を用いたラジカル制御プラズマCVD装置の概略図。(b)装置の写真。(c)プラズマの様子。ラジカル注入法によって形態を制御したカーボンナノウォールの合成ができる。

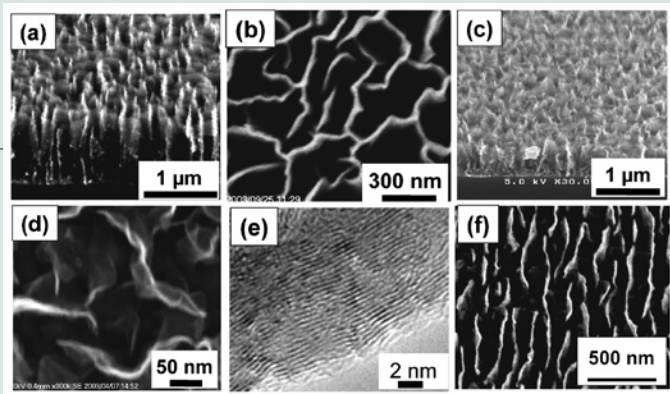


図3 C₂F₆/H₂ガスを用いて形成したカーボンナノウォール膜の走査型電子顕微鏡写真:(a)断面、(b)表面。CH₄/H₂ガスを用いて形成したカーボンナノウォール膜の走査型電子顕微鏡写真:(c)断面、(d)表面。(e)基板から剥離したカーボンナノウォールの透過型電子顕微鏡写真。(f)ストライプ形状を有するカーボンナノウォールの走査型電子顕微鏡写真。ラジカルを制御することによって、カーボンナノウォールの形態を設計することができる。

ラジカルに対して水素原子を注入することによって、両者の組成を精密に制御できるようにしました。これにより、「ラジカル制御プラズマCVD」という新しい薄膜形成法を確立し、ナノメートルサイズで所望の微細構造を有したCNWの合成を実現しました。図3は、種々のガス系から生成される炭素系ラジカルの種類を変えることによって、多様な形態のCNWを形成できることを示しています。また、図3(e)は、CNWの透過型電子顕微鏡像を示します。明確なグラフェンシートを確認することができ、CNWがグラファイトの構造体であることを示しています。さらに、ラジカルを制御することにより、ストライプ状にCNWを整列させることにも成功しました。最近、この方法で作製したCNWが半導体の性質を有することを発見しました。さらに、プラズマ中に窒素ガスを添加することによって、CNW膜の中に窒素原子を導入し、半導体の性質であるp型とn型のCNWの合成に世界ではじめて成功しました。図4は、p型の半導体特性から窒素ガスを導入することによって、n型に変化し、窒素ガ

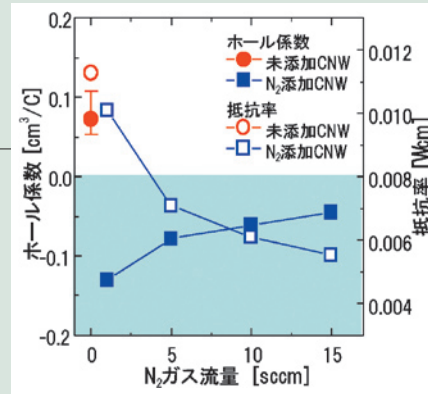
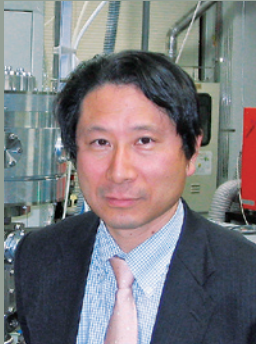


図4 ホール係数と窒素ガス量との関係。ホール係数によって半導体の性質であるp型とn型を調べることができる。窒素ガスの量とともにn型半導体の抵抗率が低くなることから分かる。

スの添加量とともに抵抗率の制御ができることを示しています。このようなCNWによる半導体素子には、従来の半導体材料、シリコンやガリウム砒素など以上に、多くの魅力があります。カーボン材料は地球上に数多く存在するため、環境調和型かつ低価格の材料です。また、カーボン是有機材料系の基本元素であり、地球上の生物系の基本構成元素となっています。カーボンで出来たコンピュータ、ロボット用センサー、アクチュエーターであれば、生物バイオ系との調和が取れ、新しいバイオ系と半導体との融合に道が開かれます。さらに、CNWはひだ状の立体構造を自律形成しています。この構造(数100 nmのひだ状の凹凸)はバイオ材料(タンパク、DNAなどの生物分子)との物質反応の場や高効率な触媒反応の場としての可能性を有しています。このように、センサー、アクチュエーター、ULSIへの応用のみならず、バイオ材料などの物質レベルでの情報交換機能を有する半導体素子の実現可能性が出てきたと考えています。今後、CNWが学理とともに新産業を拓いていくことを期待しています。

1958年岐阜市生まれ。1986年名古屋大学大学院工学研究科博士課程後期課程を修了、工学博士。株式会社東芝を経て、2004年より名古屋大学大学院工学研究科教授。現在、名古屋大学プラズマノ工学研究センター副センター長を兼務。プラズマナノプロセスの研究に従事。名古屋大学発ベンチャー企業であるNUエコ・エンジニアリング株式会社(03年)、NUシステム株式会社(06年)を設立。趣味は、テニス、スキー、園芸(ばら)。

ほり まさる



国立大学法人八大学文学部長会議を開催

●文学部

第56回（平成20年度）国立大学法人八大学文学部長会議が、6月12日（木）及び13日（金）、本学文学部を当番校としてメルパルク NAGOYA において開催されました。

同会議には、北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、広島大学及び九州大学の文学部長が出席し、また、大阪大学人間科学部副部長がオブ



会議の様子

ザーバーとして出席しました。また、文部科学省から、指導及び助言者として、小島浩孝高等教育局国立大学法人支援課課長補佐が出席しました。

開会にあたって、和田文学部長からあいさつがあり、引き続き、小島課長補佐から、「平成21年度における国立大学法人の教育研究活動の支援に係る留意点等」、「第2期中期目標期間における国立大学法人運営費交付金の配分に関する『見直しの方向性』」及び「独立行政法人通則法改正法案の概要」について、配付資料に基づいて説明があった後、質疑応答が行われ、評価に基づく運営費交付金の配分方法等を巡って、活発な意見交換が繰り広げられました。

また、同会議の協議事項として、「今期中期目標・中期計画の実施状況と課題」及び「教員評価の理念と実施方法」について、各大学の状況等が紹介された後、質疑応答が行われ、今後の各大学における取り組みにとって、大変有意義なものとなりました。

地球生命圏研究機構（SELIS）キックオフ式典と記念講演会を挙

地球生命圏研究機構（Study consortium for Earth-Life Interactive System = SELIS）キックオフ式典と記念講演会が、6月3日（火）、高等研究院カンファレンスホールにおいて行われました。

SELISは、本年3月、学内措置により設置されたもので、全国共同利用機関としての地球水循環研究センターと

環境学研究科、生命農学研究科などの学内関連組織が連携して、地球生命圏研究の学内及び国内外の推進・連携拠点を形成することを目的としています。

地球環境の持続性と変化の本質的理解を進めるには、生命圏の能動的な役割を含めた地球生命圏としてのダイナミクス研究が非常に重要ですが、従来の縦割り型の教育・研究体制では、この学際的な研究分野を体系的に構築することは困難でした。このような構造を打破して、新たな枠組みを整備することが喫緊の課題となっていたものです。

式典では、山本理事のあいさつ、安成同機構長（地球水循環研究センター教授）のあいさつと趣旨説明に続いて、林環境学研究科長及び藤井太陽地球環境研究所長が祝辞を述べました。また、同機構の看板が上掲され、関係者全員で門出を祝いました。

引き続き行われた記念講演会では、安成同機構長が「新しい地球学としての地球生命圏研究」、太田岳史生命農学研究科教授が「森林と気候の関係はどう決まっているか？ -水・エネルギー循環の視点から-」と題した講演を行い、多数の教職員・学生が参加し、熱心な質疑もあり、盛会となりました。



あいさつと趣旨説明をする安成機構長

2008年度第1回、第2回農学国際教育協力研究センターオープンセミナーを開催

●農学国際教育協力研究センター

農学国際教育協力研究センターは、5月23日(金)、生命農学研究科において、2008年度第1回オープンセミナーを開催しました。

山根裕子同センター研究機関研究員が、「東アフリカの山地に暮らす小農の生活と農業の実態—タンザニアにおけるフィールドワークを軸とする調査研究から見てきたこと—」と題して、日本とは大きく異なる自然環境、社会、経済、歴史、文化などを有するタンザニアの山地における農業の実態を報告しました。長期間にわたる地道な現地調査に基づいた現地の農業と農民の生活についての紹介は、



第1回オープンセミナーで講演する山根研究機関研究員

20名のセミナー参加者の関心呼び、活発な質疑応答が行われました。

また、6月9日(月)、第2回同セミナーを、2名の講演者を迎えて行いました。

最初に、山本宗立同センター研究機関研究員が、「東南アジア・東アジアにおけるキダチトウガラシの利用・分布」と題して学位論文の一部を紹介しました。中南米原産のキダチトウガラシがアジアに伝搬した経路、系統分類から見た分布、利用方法・呼称から見た搬路の推測など興味深い知見が披露されました。続いて、杉本充邦国際協力機構(JICA) 評価室準備室次長が、「大学の国際協力事業への参加」と題して、JICAの国際協力事業に関する大学への期待や連携方針、連携事業について紹介しました。他大学や市民の方々の参加もあり、盛況のうちに終了しました。



第2回オープンセミナーの様子

リニューアルオープン記念式典及び第22回博物館コンサートを開催

●博物館

博物館は、5月30日(金)、リニューアルオープン記念式典及び第22回博物館コンサートを開催しました。

博物館の活動拠点となっている古川記念館は、1964年に附属図書館として本学に寄贈された建物です。その後、博物館の前身である総合研究資料館、年代測定資料研究センターを経て、2000年から、博物館が2階と3階の一部を使用しています。この古川記念館の耐震改修工事が、2007年度の補正予算によって行われ、来館者から要望の多かったエレベーターと多目的トイレも設置され、バリアフリーの建物に生まれ変わりました。

リニューアルオープン記念式典は、古川記念館ゆかりの古川為之氏をはじめ多数の関係者を迎えて行われ、平野総長が、関係者にお礼を述べるとともに、博物館が本学の社会貢献・地域連携の拠点として一層発展することへの期待を表明しました。

当日は、第10回博物館特別展「今に生きる、からくり人形～ものづくりの源流と尾張文化の継承～」の初日でもあり、九代玉屋庄兵衛氏による「茶運び人形」及び「弓曳き童子」のからくり実演が、末松良一豊田工業高等専門学校長(本学名誉教授)の解説を交えて行われました。



あいさつする平野総長



雅楽の演奏と舞

また、午後には、第22回博物館コンサートとして、雅楽(三管=龍笛、篳篥、笙)の演奏が行われ、100人を超える聴衆が越天楽などの雅楽の調べと舞を堪能しました。コンサート終了後には、約20名の熱心な聴衆が、笙などの演奏法について奏者に多くの質問をするなど、盛会となりました。

中学生のためのネイチャーウォッチングを開催

●博物館

博物館は、5月24日(土)、「中学生のためのネイチャーウォッチング」を開催しました。これは、地域連携(次世代教育)プログラムのひとつとして、博物館の創設以来毎年催しているものです。本年度は、知多半島礫ヶ浦(つぶてがうら)の海岸生物ウォッチングを予定し、本学附属高校生の有志3名には事前指導も行いましたが、悪天候に阻



竹島水族館で説明を聞きながら見学する中学生

まれたため、別メニューとして、蒲郡市の竹島水族館及び生命の海科学館へのバスツアーを実施しました。

中学生22名と、前述の高校生3名、そして、附属学校の竹内史史教諭はじめ引率者4名を載せた車中では、西川博物館長から、目的地の水族館と科学館の概要と、それぞれの見所が、科学的な背景とともに詳しく説明されました。竹島水族館に着くと、まず標本室で、カニとエビの違い(腹部の位置など)、タラバガニの仲間と普通のカニとの違い(歩脚が3対か4対か)、カブトガニがクモの仲間であることなど、形の違いがそれぞれの生物の歴史の違いと関係していることが説明されました。ついで、水槽を丁寧に見て周り、実物に即した解説と質疑応答が続けられました。生命の海科学館でも、展示資料である珍しい化石や鉱物をじっくりと観察しました。

参加者アンケートの回答には、「こんどは海でまたやりたい!」「やはり海を散策したかった」という声とともに、「思ったより楽しかった」「標本もおもしろい」「説明もわかりやすくよかった」「初めて化石をじっくり見た」等の肯定的な意見が数多くみられました。来年度は、別メニューをさらに充実させ、悪天候にも備えることにしています。

中日新聞子どもタイムズ「わくわく探検」の子ども記者が博物館取材

●博物館

博物館は、5月31日(土)、中日新聞子どもタイムズ「わくわく探検」の子ども記者による取材を受けました。子ども記者は、愛知、岐阜、静岡の小学校5、6年生6名からなり、「ミクロの探検隊」についての取材を行いました。



6月15日付け中日新聞朝刊に掲載された記事

はじめに、ペットボトルで300年前のレーベンフックの顕微鏡と同じ構造の道具を作り、自分の口腔粘膜細胞や、ラットの空腸、今咲いている花の花粉、博物館所蔵の微化石である放散虫(海のプランクトン)を光学顕微鏡で観察しました。その後、(株)日立ハイテクノロジーズの協力により体験展示中の卓上走査型電子顕微鏡(SEM)を用いて、放散虫の化石や花粉を観察しました。子ども記者からは、「卓上SEMで観察するとどんな役に立つのか?」、「観察するにあたって今まで苦労したことは?」などの活発な質問があり、3時間近くの取材は無事終了しました。また、この取材による新聞記事は、6月15日(日)付け中日新聞朝刊に掲載されました。

博物館野外観察園の見学会を開催

●博物館

博物館は、4月30日(水)と5月28日(水)の2回、野外観察園の見学会を開催しました。

博物館野外観察園は、平日の日中、自由に散策が可能ですが、同園への理解をより深めていただくため、年に数回の見学会を催しています。今年度最初の会となった4月、そして5月は共に花あふれる季節で、のべ70名を超える参



園内の薬用植物を観察する参加者

加がありました。

4月30日の会では、まず、園内の重要な植物の紹介がありました。この会から初めて協力を得ることとなった学生ボランティアが、参加者を前に熱心な解説を行いました。次に、園内の花を実際に分解しながら、花のしくみや花の意味について学びました。

5月28日の会では、はじめに、羽化し始めたハッチョウトンボの観察を行いました。日本一小さなトンボの美しい姿に、参加者はじっと目を凝らしていました。次に、園内の薬用植物について学び、普段見慣れている植物に思わぬ薬用があることを知り、熱心にメモを取る参加者の姿が見られました。また、後半には、園の植物を走査型電子顕微鏡で見るイベントも開かれました。顕微鏡でおしべや花粉を観察することで、何気なく採ってきた花が非常に精巧にできていることを目の当たりにし、参加者は驚きの声をあげていました。

学生ボランティアの協力が得られるようになり、同園見学会は、ますます内容が充実していく予定です。次の見学会は10月1日(水)に予定されています。

からくり人形の実演および講演会を開催

●博物館

博物館は、6月7日(土)、特別展「今に生きる、からくり人形」期間中のイベントとして、からくり人形の実演および講演会を開催しました。

当日は、特別展会場の一角で、午前と午後の2回、九代玉屋庄兵衛氏による「カラス天狗」、「茶運び人形」、「弓曳き童子」の3種類のからくり人形の実演が満員の観客を前に披露されました。「カラス天狗」では、パフォーマンスの最後に、天狗が掛け軸にぶら下がることによって『祝名大博物館』という文字が現れると、歓声とともに大きな拍手が起こりました。観客は、からくりパフォーマンスの後

に、九代玉屋庄兵衛氏と末松良一名誉教授(豊田工業高等専門学校長)によるからくりの種明かしの解説を聞き、人形に凝縮された先人の知恵にふれることができました。

からくりの実演の後、末松名誉教授による「今に生きる、からくり人形—ものづくりの源流と尾張文化の継承」と題した講演会が、博物館講義室において開催されました。講演では、からくり人形の歴史、和時計技術のからくり人形への応用、江戸時代に尾張地方で山車からくりが発達した理由、日本と西洋のからくり人形の比較、日本人のロボット観、茶運び人形の動きを応用したドリームキャリアー、日本オリジナルの技術例として地震国の日本で倒壊したことがない五重塔などの話題が分かりやすく解説されました。150人を越える聴衆は、「目から鱗」の講演に時の経つのを忘れて聞き入っていました。



講演する末松名誉教授



カラス天狗を操る玉屋庄兵衛氏

第30回附属図書館研究開発室オープンレクチャーを開催

●附属図書館

附属図書館研究開発室は、5月19日(月)、同館5階多目的室において、第30回オープンレクチャーを開催しました。これは、同室が掲げる図書館のハイブリッド化に関する研究開発及び学術情報流通についての今後の課題を主なテーマとして、平成14年度から学内外の方を対象に開催しているもので、今回は、三根慎二附属図書館研究開発室助



オープンレクチャーの様子

教が、「オープンアクセス：学術情報流通の新潮流」と題して講演を行いました。

講演では、まず学術情報流通、すなわち研究者による情報の生産から、その流通、組織化、利用について、基本的な概念の説明があり、特にその中で学術雑誌が特権的地位にあることが示されました。学術情報流通が電子化されることによって、一般的には学術雑誌が依然として学術情報流通の要であることに変わりはないが、大学図書館が学術雑誌を購入し提供する形態が所有からアクセスへと変化したことが大きな意味合いを持つとの説明がありました。最後には、現在世界中で高い関心を集めているオープンアクセスについて、その歴史、定義から、実現手段、世界的な動向まで幅広く報告されました。

講演終了後は、電子化が進んだ環境において冊子体学術雑誌を読み続けることの意味、研究者の立場から物理学や数学においてプレプリントアーカイブが情報交換や成果公表に果たしている役割、日本における e-Science と機関リポジトリの今後の関係などについて、質疑と活発な意見交換が行われ、充実したレクチャーとなりました。

3.18 ジャワハルラル・ネルー先端科学研究所名誉所長

インド科学界の最重要人物の一人であるC.N.R. ラオ (Chintamani NAgesa Ramachandra Rao) 教授が、本学とインドとの学術交流を更に促進するために、本学グローバル COE プログラム「分子性機能物質科学の国際教育研究拠点形成」主催の「先端的ナノマテリアルに関するインド・名古屋大学ワークショップ」において講演するとともに、表敬訪問されました。



4.25 華中科技大学副学長等

本学と大学間学術交流協定を締結している華中科技大学副学長等が訪問され、学術交流推進に関する意見交換を行うとともに、工学関係の施設を視察されました。



5.21 タイ農業・協同組合省副大臣等

タイ農業・協同組合省副大臣等が訪問され、農学国際教育協力センターと国際協力を進めている農地改革局 (ALRO) との学術交流協定の締結等について意見交換を行うとともに、同センターを視察されました。



5.30 タイ公使参事官等

タイ公使参事官等が訪問され、タイ政府派遣の奨学生を中心としたタイ人留学生の就学及び生活状況を把握するとともに、国際交流について意見交換が行われました。



新任部局長の紹介

●総務部長

茶 嶋 豊
(ちゃばたけ ゆたか)



〈略歴〉

昭和56年4月 北海道教育大学札幌分校庶務係
昭和58年6月 文部省大臣官房調査統計課
昭和63年4月 文部省大臣官房調査統計課国内第一調査係主任
昭和63年7月 文部省大臣官房調査統計企画課管理係主任
昭和63年10月 文部省大臣官房調査統計企画課管理係長
平成元年4月 文部省大臣官房調査統計企画課専門調査係長
平成2年4月 文部省大臣官房調査統計企画課学校基本調査係長
平成4年4月 文部省大臣官房政策課総務係長
平成7年4月 秋田大学庶務部庶務課長
平成9年4月 奈良女子大学会計課長
平成10年4月 文部省大臣官房調査統計企画課分析調査官
平成12年6月 文部省大臣官房調査統計企画課課長補佐
平成13年1月 文部科学省生涯学習政策局調査企画課課長補佐
平成14年4月 文部科学省生涯学習政策局社会教育課課長補佐
平成16年4月 金沢大学総務部長 (併) 研究国際部長
平成17年4月 奈良先端科学技術大学院大学総務部長
平成18年4月 奈良先端科学技術大学院大学教育・研究支援部長
平成19年4月 名古屋大学学務部長
平成20年7月 名古屋大学総務部長

●学務部長

安 田 修
(やすだ おさむ)



〈略歴〉

昭和53年4月 滋賀医科大学総務部庶務課
昭和56年1月 文化庁文化部文化普及課
昭和60年6月 文部省初等中等教育局小学校課
昭和62年1月 文部省初等中等教育局小学校課庶務係主任
昭和63年4月 文部省初等中等教育局小学校課庶務係長
平成6年4月 千葉大学入試課長
平成8年4月 国立教育研究所庶務部庶務課長
平成10年1月 文部省初等中等教育局特殊教育課課長補佐
平成13年1月 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課課長補佐
平成13年4月 文部科学省初等中等教育局児童生徒課課長補佐
平成15年10月 福井大学総務部長
平成17年11月 独立行政法人国立特殊教育総合研究所総務部長
平成19年4月 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所総務部長
平成20年7月 名古屋大学学務部長

受賞者一覧

教員

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H19. 5.13	The First Place in Best Poster Competition at The Fifth China International Conference on High-Performance Ceramics (CICC-5)	エコトピア科学研究所 准教授	坂本 渉	今田圭一（平成16年度本学修了生）、志村哲生（大学院工学研究科助教）、余語利信（エコトピア科学研究所教授）と連名
H19.11.18	(財)臨床薬理振興財団 研究奨励賞	環境医学研究所助教	竹内 英之	
H19.11.25	Excellent Presentation Award International Symposium on EcoTopia Science 2007	エコトピア科学研究所研究 機関研究員	隈部 和弘	藤本真司（産業技術総合研究所）、尾方 護（産業技術総合研究所）、福田哲久（産業技術総合研究所）、矢部 彰（産業技術総合研究所）、美濃輪智朗（産業技術総合研究所）と連名
H20. 3.11	(財)上原記念生命科学財団 研究奨励賞	環境医学研究所助教	竹内 英之	
H20. 3.13	ノルウェー科学文学アカデミー会員	太陽地球環境研究所教授	藤井 良一	
H20. 3.24	交通協力会 交通図書賞「奨励賞」	大学院工学研究科教授	谷口 元	
H20. 3.25	日本機械学会 船井特別賞	大学院工学研究科教授	福田 敏男	
H20. 3.25	日本機械学会 日本機械学会フェロー	大学院工学研究科教授	生田 幸士	
H20. 3.25	代数学賞	大学院多元数理科学研究科 准教授	伊山 修	
H20. 3.26	永井科学術財団 永井学術賞	大学院工学研究科准教授	佐々木浩一	
H20. 3.26	日本金属学会 谷川・ハリス賞	大学院工学研究科教授	森永 正彦	
H20. 3.26	日本鉄鋼協会 澤村論文賞	大学院工学研究科准教授	岩井 一彦	他4名と連名
H20. 3.26	Award for Excellence to Authors Publishing in Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry in 2007（日本農芸化学会論文賞）	大学院生命農学研究科 准教授	石黒 澄衛	中村研三（大学院生命農学研究科教授）、前尾健一郎（大学院生命農学研究科助教）、鈴木孝征（大学院生命農学研究科助教）、河合都妙（大学院生命農学研究科産学連携研究員）、田畑 亮（大学院生命農学研究科研究員）、村田聡子（大学院生命農学研究科 M2）、他7名と連名
H20. 3.27	日本化学会 学術賞	大学院工学研究科教授	馬場 嘉信	
H20. 3.27	日本化学会賞	理事	大峯 巖	
H20. 3.27	日本化学会賞	特別招へい教授	甲斐荘正恒	
H20. 3.28	第2回 PCCP 賞	大学院工学研究科助教	加地 範匡	
H20. 3.28	資源・素材学会 奨励賞	大学院工学研究科助教	佐野 浩行	
H20. 3.28	日本コンピュータ外科学会 講演論文賞	大学院工学研究科教授	生田 幸士	池内真志（大学院工学研究科助教）、他3名と連名
H20. 3.29	触媒学会 優秀ポスター発表賞	大学院工学研究科准教授	吉田 朋子	武藤俊介（大学院工学研究科教授）、他1名と連名
H20. 3.29	日本地理学会賞特別賞	大学院環境学研究科教授	海津 正倫	
H20. 3.30	電気化学会ポスター賞	大学院環境学研究科助教	長尾 征洋	日比野高士（大学院環境学研究科教授）、許 弼源（大学院環境学研究科研究員）、伊藤健一（大学院環境学研究科 M2）、藤原慶祐（大学院環境学研究科 M1）と連名
H20. 4.10	日本化学会 優秀講演賞	大学院工学研究科助教	ウヤスク ムハメット	
H20. 4.15	平成20年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）	大学院工学研究科教授	河本 邦仁	詳細は本誌180号 p.12参照
H20. 4.15	平成20年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）	名誉教授	坂田 誠	詳細は本誌180号 p.12参照
H20. 4.15	平成20年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞	大学院理学研究科助教	上野 隆史	詳細は本誌180号 p.12参照
H20. 4.15	平成20年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞	大学院工学研究科准教授	岸田 英夫	詳細は本誌180号 p.12参照
H20. 4.15	平成20年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞	大学院理学研究科助教	成田 哲博	詳細は本誌180号 p.12参照
H20. 4.15	平成20年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞	大学院多元数理科学研究科 准教授	藤野 修	詳細は本誌180号 p.12参照
H20. 4.15	未踏科学技術協会 超伝導科学技術賞	大学院工学研究科准教授	吉田 隆	
H20. 4.18	日本神経免疫学会 平成20年度 Young Neuroimmunologist Award	環境医学研究所助教	竹内 英之	
H20. 4.21	日本学術振興会 第146委員会賞	大学院工学研究科助教	赤池 宏之	
H20. 4.24	第10回 LSI IP デザイン・アワード 企業部門 IP 優秀賞	大学院情報科学研究科教授	高田 広章	服部博行（株式会社ヴィッツ）、大西秀一（株式会社ヴィッツ）、片岡 歩（株式会社ヴィッツ）と連名
H20. 4.29	春の叙勲 瑞宝中綬章	名誉教授	鶴高 重三	詳細は本誌181号 p.5参照
H20. 4.29	春の叙勲 瑞宝中綬章	名誉教授	江藤 恭二	詳細は本誌181号 p.5参照
H20. 4.29	春の褒章 紫綬褒章	名誉教授・大学院生命農学研究科特任教授	磯部 稔	詳細は本誌181号 p.5参照

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H20. 4.30	International Union of Pure and Applied Physics Young Scientist Prize	大学院理学研究科助教	吉田 直紀	
H20. 5.10	Merck-Banyu Lectureship Award 2007	大学院理学研究科准教授	伊丹健一郎	
H20. 5.13	日本トライボロジー学会 学会論文賞	大学院工学研究科教授	福澤 健二	
H20. 5.13	2007年度 日本トライボロジー学会論文賞	名誉教授	三矢 保永	張 賀東 (大学院情報科学研究科助教)、 早川文洋 (株式会社東海理化電機製作所)、 大木潤一 (東海旅客鉄道株式会社)、 福澤健二 (大学院工学研究科教授) と連名
H20. 5.17	環境アセスメント学会奨励賞	エコトピア科学研究所 准教授	林 希一郎	
H20. 5.18	日本色彩学会 第12回色彩学会論文奨励賞	大学院環境学研究科准教授	高橋 晋也	
H20. 5.19	2008 IEEE International Conference on Robotics and Automation Best Automation Paper -23	大学院工学研究科教授	福田 敏男	
H20. 5.20	粉体工学会 研究奨励賞	大学院工学研究科助教	森 隆昌	
H20. 5.22	日本顕微鏡学会 優秀ポスター賞	大学院工学研究科助教	川崎 忠寛	他1名と連名
H20. 5.22	日本顕微鏡学会 女性研究者ポスター賞	大学院工学研究科准教授	吉田 朋子	
H20. 5.22	東海化学工業会 東海化学工業会賞	大学院工学研究科准教授	大河内美奈	
H20. 5.23	日本塑性加工学会 最優秀賞会田技術賞	大学院工学研究科教授	金武 直幸	
H20. 5.24	日本経済政策学会学会賞「研究奨励賞」	大学院経済学研究科講師	土井 康裕	
H20. 5.27	電子情報通信学会 平成19年度論文賞	情報連携基盤センター教授	石川 佳治	町田陽二 (株式会社日立情報システムズ)、 北川博之 (筑波大学教授) と連名
H20. 5.29	地盤工学会 論文賞	大学院工学研究科教授	野田 利弘	浅岡 顕 (大学院工学研究科教授)、 他1名と連名
H20. 5.29	高分子学会 学会賞	大学院工学研究科教授	八島 栄次	
H20. 5.29	高分子学会 奨励賞	大学院工学研究科講師	佐藤浩太郎	
H20. 5.30	マザック財団賞	大学院工学研究科助教	鈴木 教和	
H20. 5.30	土木学会 吉田賞	大学院工学研究科准教授	國枝 稔	中村 光 (大学院工学研究科教授)、 他3名と連名
H20. 5.30	日本建築学会教育賞	大学院環境学研究科教授	福和 伸夫	
H20. 6. 9	Donald E. Francke Medal	名誉教授	鍋島 俊隆	
H20. 6. 9	日本学士院賞	名誉教授	永井 美之	
H20. 6.14	第5回日本独文学会賞 (日本語研究書部門)	大学院国際言語文化研究科 准教授	山口 庸子	

学生

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H19. 9. 7	第3回アスタキサンチン研究会奨励賞	大学院生命農学研究科 D3	劉 学波	
H19.11.25	エコトピア科学国際シンポジウム2007優秀発表賞	大学院工学研究科 M2	浅井 敏彦	守谷 誠 (エコトピア科学研究所助教)、 坂本 渉 (エコトピア科学研究所准教授)、 余語利信 (エコトピア科学研究所教授) と 連名
H19.11.30	International Conference on Food Factors for Health Promotion 2007 Young Investigator Award	大学院生命農学研究科 M2	加藤真奈美	
H19.12. 3	The Society for Free Radical Research Australasia and Japan 2007 Young Investigator Award	大学院生命農学研究科 D2	石野 孔祐	
H20. 3. 1	電気学会東海支部長賞	工学部4年	清水 郁伸	
H20. 3.12	第14回学術奨励講演賞 (社団法人 表面技術協会)	工学部4年	藤川 理大	
H20. 3.14	情報処理学会第70回全国大会 学生奨励賞	大学院情報科学研究科 M2	井上 陽介	安田孝美 (大学院情報科学研究科教授)、 横井茂樹 (大学院情報科学研究科教授) と 連名
H20. 3.15	情報処理学会第70回全国大会学生奨励賞	大学院情報科学研究科 M2	張 ヘイ	
H20. 3.18	化学工学会 技術奨励賞	大学院工学研究科 D3	阿蘇谷利光	
H20. 3.18	電子情報通信学会 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M2	ファン ミン トゥン	
H20. 3.25	日本化学会 日本化学会東海支部長賞	工学部4年	安井 猛	
H20. 3.25	日本鉄鋼協会・日本金属学会 奨学賞	大学院工学研究科 M1	関 和明	
H20. 3.25	日本鉄鋼協会・日本金属学会 奨学賞	大学院工学研究科 M1	神谷 肇	
H20. 3.27	応用物理学会 講演奨励賞	大学院工学研究科 M2	杉浦 俊	
H20. 3.27	日本畜産学会第109大会優秀発表賞	大学院生命農学研究科 M2	小野ひろ子	中尾暢宏 (日本学術振興会特別研究員)、 吉村 崇 (大学院生命農学研究科教授)、 他18名と連名
H20. 3.30	日本化学会 第88春季年会学生講演賞	大学院理学研究科 D3	横井 紀彦	
H20. 4.10	日本化学会 学生講演賞	大学院工学研究科 D3	マケド フーアド	

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H20. 4.10	日本化学会 学生講演賞	大学院工学研究科 D3	伏見 真	
H20. 4.17	土木学会中部支部 優秀研究発表賞	大学院工学研究科 M2	稲野 晃	
H20. 4.17	土木学会中部支部 優秀研究発表賞	大学院工学研究科 M1	森本 拓也	
H20. 4.18	Outstanding Student Paper Award (学生優秀発表賞)	大学院理学研究科 D3	中島 章光	
H20. 4.24	第10回 LSI IP デザイン・アワード 企業部門 IP 優秀賞	大学院情報科学研究科 D3	松原 豊	服部博行 (株式会社ヴィッツ)、大西秀一 (株式会社ヴィッツ)、片岡 歩 (株式会社ヴィッツ) と連名
H20. 4.30	第54回構造工学シンポジウム論文賞	大学院工学研究科 D2	キム ヘヤン	リュウブン (大学院工学研究科 M2)、北川徹哉 (エコトピア科学研究所准教授)、エレナ ドラゴミレスク (元エコトピア科学研究所研究員) と連名
H20. 5. 5	ロボカップレスキューシミュレーションリーグ 第2位	大学院情報科学研究科 M2	原 大曜	鳥海不二夫 (大学院情報科学研究科助教) と連名
H20. 5. 5	ロボカップレスキューシミュレーションリーグ 計測自動制御学会賞	大学院情報科学研究科 M2	原 大曜	鳥海不二夫 (大学院情報科学研究科助教) と連名
H20. 5. 7	第3回 (平成20年度) 日本植物病理学会大会 学生優秀発表賞	大学院生命農学研究科 D3	浅井 秀太	吉岡博文 (大学院生命農学研究科准教授) と連名
H20. 5. 7	第3回 (平成20年度) 日本植物病理学会大会 学生優秀発表賞	大学院生命農学研究科 M2	倉田 智彬	倉橋 真 (大学院生命農学研究科卒業生)、播本佳明 (大学院生命農学研究科研究員)、張 裕介 (大学院生命農学研究科 M2)、飯田祐一郎 (大学院生命農学研究科研究員)、柘植尚志 (大学院生命農学研究科教授) と連名
H20. 5.13	Best Poster Award (The fourth International SiGe Technology and Device Meeting)	大学院工学研究科 D3	豊田 英二	中塚 理 (大学院工学研究科講師)、財満鎮明 (大学院工学研究科教授)、他4名と連名
H20. 5.15	平成19年度 情報処理学会東海支部 学生論文奨励賞	大学院情報科学研究科 M2	林 佑樹	
H20. 5.15	日本分析化学会 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M1	山口 正人	
H20. 5.16	日本分析化学会 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M2	鬼海 高明	
H20. 5.16	日本分析化学会 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M2	高崎 裕加	
H20. 5.16	第69回分析化学討論会ポスター賞 「初めての学会発表」部門	大学院工学研究科 M2	野田 和孝	森田成昭 (エコトピア科学研究所助教)、宮田康史 (名古屋工業研究所)、北川邦行 (エコトピア科学研究所教授) と連名
H20. 5.18	日本感情心理学会 第16回大会優秀発表賞	大学院環境学研究科 D3	村上 裕樹	大平英樹 (大学院環境学研究科教授)、他1名と連名
H20. 5.22	日本伝熱学会 優秀プレゼンテーション賞	大学院工学研究科 D1	鈴木 博貴	
H20. 5.25-28	Best Presentation Award 10th International Conference on Ceramic Processing Science (ICCPs-10)	大学院工学研究科 M2	中村 雅人	
H20. 5.25-28	Best Poster Award (Morphology of Calcium Phosphate Crystals Formed in Gel-Mediated Processing)	大学院工学研究科 M2	横井 太史	
H20. 5.25-28	Best Poster Award (Fabrication and Characterization of Anode-Supported Micro SOFC for Low Temperature Operation)	大学院工学研究科 M2	白井 友宏	
H20. 6. 1-8	26th International Symposium on Space Technology and Science General Chairperson Award	大学院工学研究科 M2	関谷 洋平	
H20. 6. 1-8	26th International Symposium on Space Technology and Science General Chairperson Award	大学院工学研究科 M2	小林 祐介	
H20. 6.11	電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞	大学院工学研究科 M2	山田 祥之	
H20. 6.13	第3回 DCS 船井賞	平成20年度本学修了生 (シャープ株式会社)	小川 晃	高橋友和 (日本学術振興会特別研究員)、井手一郎 (大学院情報科学研究科准教授)、村瀬 洋 (大学院情報科学研究科教授) と連名

* 受賞者の所属・職名又は学年は、受賞当時

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成20年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
1 中国・四川大地震 山中佳子・環境学研究所附属地震火山・防災研究センター准教授は、長さ260キロ、幅50キロの断層が110秒かけて最大6.7メートル動いたと解析	5.16 (金) 5.19 (月)	朝日 (朝刊) 日経 (朝刊)
2 国際言語文化研究科公開講座「メディアを読み解き、創造・発信する力」6月11日～7月4日まで開催	5.16 (金)	読売
3 紙つづて：福井康雄・理学研究科教授 人類の宇宙像	5.17 (土)	中日 (夕刊)
4 環境フォーラム・ヒマラヤ写真展「若者よ、地球を歩け～ヒマラヤ氷河が発信する明日へのメッセージ～」4月20日開催：藤田耕史・環境学研究所准教授「今、ヒマラヤで起きていること」、上田豊・本学名誉教授「地球を歩こう」	5.18 (日)	朝日 (朝刊)
5 ネーチャー・ウオッチ：安成哲三・地球水循環研究センター教授 絶え間なく変化する気象 ⑧ モンスーン	5.18 (日)	日経 (朝刊)
6 中国・四川大地震 鈴木康弘・環境学研究所附属地震火山・防災研究センター教授は、「地上に現れた断層の規模から地震の大きさが裏付けられた。断層と被害の関係を知り、防災に生かす貴重な情報だ」と話す	5.18 (日)	読売
7 中国・四川大地震 福和伸夫・環境学研究所教授は、愛知県の小中学校の教師約400人に四川大地震の映像を見てもらい、「多くの人が集まる施設が被災すると影響が大きいのので、優先順位をつけて耐震化を進めるべきだ」と対策の重要性を訴える	5.19 (月)	朝日 (朝刊)
8 杉山範子・環境学研究所助教は、「『気象保護法』の制定をすることにより、温室効果ガスの削減をどう実現させるかという議論に多くの人々を巻き込むきっかけになれば」と話す	5.19 (月)	中日 (朝刊)
9 本学1年生の有志が白川公園や広小路通を仮装行列し「名大祭」をPR	5.19 (月)	読売
10 中国・四川大地震 被災者を支援しようと劉 学波さん・本学研究員や中国人留学生が救援募金を募る	5.19 (月)	中日 (朝刊) 他1社
11 鳥本司・工学研究科教授と大阪大学の研究チームが、ぬれた物質でも電子顕微鏡で観察できる技術を開発	5.20 (火)	中日 (朝刊) 他1社
12 書籍：「切らないがん治療 ～東海最先端ガイド～」伊藤善之・医学系研究科准教授らが解説	5.20 (火)	中日 (朝刊)
13 学生之新聞：学生が見た「モディリアーニ展」高木賢治・本学大学院生、鈴木まり子・本学学生がレポート	5.20 (火)	中日 (朝刊)
14 古書の会21日開催：塩村耕・文学研究科教授	5.20 (火)	中日 (夕刊)
15 時のおもり：総合研究大学院大学教授・池内了・本学名誉教授 非合理主義の罟を見抜け	5.21 (水)	中日 (朝刊)
16 訃報：大橋勝・本学名誉教授	5.21 (水)	中日 (朝刊) 他4社
	5.22 (木)	中日 (朝刊)
17 第1回シンクロトン光利用者研究会 ―中部シンクロトン光利用施設(仮称)の展望― 6月16日開催	5.22 (木)	日刊工業
18 「名大病院市民公開講座」6月14日開催：松山幸弘・医学系研究科准教授「知っておこう 腰痛の原因と治療最前線」、加藤勝義・医学部附属病院薬剤主任・安藤幸子・同看護師「ご存知ですか? 治験って…」	5.22 (木) 6.10 (火) 6.12 (木) 6.15 (日)	中日 (朝刊)
19 名古屋大学交響楽団第94回定期演奏会25日開催	5.22 (木)	中日 (朝刊)
20 勤務医不足の解消を狙い、愛知県医療審議会医療対策部会が、09年度から医学部の定員を本学で3人増やすことを承認	5.22 (木) 5.23 (金)	朝日 (朝刊) 中日 (朝刊)
21 ニッポン人・脈・記：塩村耕・文学研究科教授 妻へ子へ思いを架ける「出会い橋なみだ橋」	5.22 (木)	朝日 (夕刊)
22 金武直幸・工学研究科教授が日本塑性加工学会の会田技術賞を受賞	5.23 (金)	日刊工業
23 「緑茶と健康フォーラム 緑茶の魅力再発見」21日開催：後藤秀実・医学系研究科教授「特定健診制度と生活習慣病予防」	5.23 (金)	中日 (朝刊)
24 紙つづて：福井康雄・理学研究科教授 ものをつくる技術	5.24 (土)	中日 (夕刊)
25 瓜谷章・工学研究科教授「柔道を通じた障害者教育」開始	5.24 (土)	中日 (夕刊)
26 中部を彩る：イサム・ヤシンさん・本学大学院生 本当のアフリカ伝える	5.24 (土)	日経 (夕刊)
27 中日新聞を読んで：中西久枝・国際開発研究科教授 中国に市民社会の胎動	5.25 (日)	中日 (朝刊)
28 ネーチャー・ウオッチ：安成哲三・地球水循環研究センター教授 絶え間なく変化する気象 ⑨ 森林破壊	5.25 (日)	日経 (朝刊)
29 2003年本学他4大学にある老年科の外来患者597人を調査 高齢者は平均3.5種類の病気をもち、4.5種類の薬を服用	5.25 (日)	日経 (朝刊)
30 朝日カルチャーセンター：山本直人・文学研究科教授「北陸・縄文の旅」、阿部泰郎・同研究科教授「信貴山縁起絵巻のひみつ」	5.25 (日) 6.13 (金)	朝日 (朝刊)
31 千の種あかし隊「名大キャンパスのみりよくを探れ!」24日開催：小松尚・環境学研究所准教授と鈴木賢一・名古屋市立大学教授のそれぞれの研究室がアイデアづくりなどに参加	5.25 (日)	中日 (朝刊)
32 後 房雄・法学研究科教授は「自治体の二元代表制は、機能不全になっている。多様な統治形態を認めるべきだ」と地方の政治制度の見直しを訴える	5.26 (月)	中日 (朝刊)
33 教育：郷 通子・本学名誉教授 教育投資 拡大は不可欠	5.26 (月)	日経 (朝刊)
34 医学部附属病院は名古屋工業大学の研究グループと共同で、腹腔鏡手術時に使われるトロッカーと呼ばれる器具の作業訓練システムを開発	5.26 (月)	日刊工業
35 医学部公開ツアー「医次元への招待状～08」5月31日、6月1日開催	5.26 (月)	中日 (朝刊)
36 食の健康学：玉腰浩司・医学部教授はこれまでの調査から、早食いの習慣は子どもの時代に身につく、維持される、と分析する	5.26 (月)	朝日 (夕刊)
37 「第10回セラミックプロセッシング科学国際会議」犬山で25～28日開催：組織委員長・平野眞一総長	5.27 (火)	中日 (朝刊) 読売
38 堀 勝・工学研究科教授らのグループが、カーボンナノウォールの電気伝導制御に成功	5.27 (火) 6.1 (日)	中日 (朝刊) 他2社 毎日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成20年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
39 学生街ダンス：七條晶子さん・本学学生 地域と交流深めたい	5.27 (火)	中日 (朝刊)
40 本学など愛知県4大学の小児科が連携し、今年度中に専門医を育てる取り組みを開始 小島勢二・医学系研究科教授は、「県内で小児医療が完結できるようにしたい」と話す	5.27 (火)	朝日 (夕刊)
41 名古屋産業科学研究所は、本学など地域の主要大学を定年退官した名誉教授を“産学連携コーディネーター”として活用する取り組みを開始	5.29 (木)	日刊工業
42 鈴木康弘・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター教授らの研究グループは、敦賀原子力発電所の敷地直下を通る「浦底断層」が、阪神大震災で大きな揺れを生んだ「横ずれ型の末端部」と確認 地震による土地のずれで、敦賀原発の主要施設が破壊される恐れがあることを指摘する	5.29 (木)	中日 (朝刊)
43 本学相撲部 「どすこい!! 名古屋城 RAVE」7月5日開催	5.29 (木)	中日 (朝刊)
44 名城大学教授・飯島澄男・本学特別招へい教授がノルウェー科学文学アカデミーが、新たに創設した「カプリ賞」の第1回受賞者に輝く	5.29 (木)	中日 (夕刊) 他3社
	5.30 (金)	日刊工業 他1社
	5.31 (土)	中日 (朝刊) 他3社
	6.11 (水)	日刊工業
	6.12 (木)	中日 (朝刊)
45 風向計：家森信善・経済学研究科教授 大学の社会貢献 使命に	5.30 (金)	読売
46 吉岡博文・生命農学研究科准教授の研究グループが、植物の免疫反応をつかさどるたんぱく質を特定	5.31 (土)	中日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
	6. 2 (月)	日刊工業
47 紙つぶて：福井康雄・理学研究科教授 ロスアラモスから	5.31 (土)	中日 (朝刊)
48 今注目されている愛知医科大学の「学術的痛みセンター」 平田仁・医学系研究科教授は、「各専門医が総合的に治療研究を進める取り組みは評価できる」と話す	5.31 (土)	中日 (朝刊)
49 「エコアクセスフル・シンポジウムー中部の環境と交通を考えるー」テレピアホールで6月11日開催：森川高行・環境学研究科教授 「エコ通勤とは」	5.31 (土)	中日 (朝刊)
	6.12 (木)	
50 本学などの調査による放射性炭素年代測定法で、7～10世紀に描かれたとされていたパーミヤンの仏教壁画は世界最古の油絵と判明	5.31 (土)	中日 (朝刊)
	6. 1 (日)	日経 (朝刊)
51 改修工事が終了し博物館再開 記念特別展「今に生きる、からくり人形ーものづくりの源流と尾張文化の継承ー」7月26日まで開催	6. 1 (日)	読売
	6. 4 (水)	毎日 (朝刊)
52 本学と矢作建設工業が共同で、木造住宅を耐震補強する新工法の公開実験を行う	6. 1 (日)	中日 (朝刊)
53 「心理学者 原口鶴子の青春 100年前のコロンビア大留学生在が伝えたかったこと」無料上映会6日開催	6. 1 (日)	読売
	6. 4 (水)	毎日 (朝刊)
54 マイナス80：竹内恒夫・環境学研究科教授 名チャリ 1	6. 2 (月)	中日 (朝刊)
55 「法科大学院合同説明会」28日開催：本学他8大学が参加	6. 2 (月)	中日 (朝刊)
	6. 8 (日)	
	6.14 (土)	
56 マザック財団は07年度の研究助成対象に、大岡昌博・情報科学研究科准教授、沓名宗春・元工学研究科教授、優秀論文表彰に鈴木教和・工学研究科助教らが選定される	6. 2 (月)	日刊工業
57 太陽地球環境研究所などのグループは、宇宙空間で最小の惑星系を発見	6. 3 (火)	中日 (朝刊) 他2社
58 名大サロンの主役：篠原久典・理学研究科教授 「偶然」を「必然」に変える	6. 3 (火)	中日 (朝刊)
59 後 房雄・法学研究科教授は、市議会の一問一答方式は「議会や行政の質向上に有効だ」と話す	6. 3 (火)	朝日 (朝刊)
60 三重県尾鷲市に求めた情報公開請求で、公開の可否の決済にかかわる市議会議長が、他の全市議会議員に請求者名や利用目的などを通知していた問題で、後 房雄・法学研究科教授は、「市議長の認識不足では済まされない深刻な問題。一般市民が自由に公開請求できる権利を阻害することにつながる」と話す	6. 3 (火)	中日 (朝刊)
61 健康東海プラザ：杉田二郎・医学部附属病院助教 軽視は禁物ドライアイ	6. 3 (火)	読売
62 理工系学生のおなたへ「企業に研究開発してほしい未来の夢」コンテストオリエンテーション参加者募集!!：25日開催	6. 3 (火)	日経 (朝刊)
63 第2回 学術シンポジウム「学術と『産学連携』～産学連携とひとつづくり～」13日開催	6. 3 (火)	読売
64 文部科学省は国際交流プログラムを開発する大学を助成 本学など13件が採択される	6. 4 (水)	中日 (朝刊)
65 春名幹男・国際言語文化研究科教授が、日米間の密約「朝鮮有事議事録」の公文書をアメリカ・ミシガン大学フォード大統領図書館で入手	6. 4 (水)	朝日 (朝刊)
66 ポートメッセ名古屋 「第11回 国際福祉健康産業展ウェルフェア2008」に、携帯電話からも検索できる病院情報データベース「ホスピタルナビ」を出展	6. 4 (水)	中日 (朝刊)
	6. 5 (木)	
67 叙位叙勲：正四位 伏見康治・本学名誉教授	6. 4 (水)	中日 (朝刊)
68 老年学：愛知淑徳大学教授・井口昭久・本学名誉教授 触れられる大切さ	6. 5 (木)	朝日 (朝刊)
69 名城大学教授・飯島澄男・本学特別招へい教授が、スペインの「アストゥリアス皇太子賞」を受賞	6. 5 (木)	中日 (夕刊) 朝日 (夕刊)
	6. 6 (金)	毎日 (朝刊) 他2社

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成20年5月16日～6月15日]

記事	年月日	新聞等名
70 改革に挑む 大学この人に聞く：平野真一総長 国際的な産学連携や知的財産活用を目的に、アメリカ・ノースカロライナ州に非営利法人「名古屋大学テクノロジーパートナーシップ」を設立	6. 6 (金)	日刊工業
71 「グローバル・サスティナビリティと大学の役割」札幌で29日開幕：日本から本学他13大学、主要8カ国から14大学、中国、インドなどから8大学の合計37大学が参加	6. 6 (金)	日刊工業
72 木曾三川公園「東海広場」に「セアカゴケグモ」が大量発生 田中利治・生命農学研究科教授は、「温暖化の影響で越冬できる気候になっている可能性もあり、完全に駆除することは難しい。不用意に触らないよう注意が必要」と話す	6. 6 (金)	中日 (朝刊)
73 吉田重方・本学名誉教授が、平成20年度環境保全労働者等の「地域環境保全功労者」に表彰される	6. 6 (金)	読売
74 第1回東名セミナー「健康と病気 リハビリテーションの関わり -健康増進のためのリハビリと病気のリハビリ-」14日開催：山田純生・医学部保健学科教授 「心臓の病気とリハビリテーション」	6. 7 (土)	中日 (夕刊)
75 紙つぶて：福井康雄・理学研究科教授 教育の予算	6. 7 (土)	中日 (夕刊)
76 「知っていますか？ B型肝炎について」21日開催：片野義明・医学部附属病院講師	6. 7 (土)	中日 (夕刊)
77 ナゾ謎かがく：石浦正寛・遺伝子実験施設教授と近藤孝男・理学研究科教授らが発見した、藻類の体内時計を構成する遺伝子	6. 8 (日)	日経 (朝刊)
78 平成20年度「高校生防災セミナー」7日開催：福和伸夫・環境学研究科教授 「必ず出会う巨大地震とどう向き合うか」	6. 8 (日)	中日 (朝刊)
79 「連続憲法講座2008 い・ま・こ・そ憲法一よみがえれ！憲法-」7日開催：本 秀紀・法学研究科教授 「憲法総点検 - 日本の今とこれから」	6. 8 (日)	中日 (朝刊)
80 豊田講堂改修竣工式・同竣工記念ホームカミングデイ2月2日開催	6. 9 (月)	日刊建設工業
81 「公立病院等地域医療連携のための有識者会議」（座長・松尾清一・医学部附属病院院長）は、外来救急医療と入院救急医療に分けた体制を作ることを提案	6.10 (火)	読売
82 健康東海プラザ：松尾清一・医学部附属病院院長 生活習慣病対策しっかり	6.10 (火)	読売
83 全国国公立・有名私大相談会2008 本学による基調講演 6日開催	6.10 (火)	朝日 (朝刊)
84 愛知県立大学長・佐々木雄太・元本学副総長が、2009年4月に統合される県立大学と県立看護大学の初代学長に就任	6.10 (火)	中日 (朝刊) 他2社
85 社会に踏み出す脳科学ーラボから変わる未来像7月8日開催：尾崎紀夫・医学系研究科教授 「神経科の患者が悩むこと、医療に望むこと」	6.10 (火)	日経 (夕刊)
86 ライトピア・シンポジウム「高齢期の生活習慣病」：第1回 榊原久孝・医学部保健学科教授、葛谷雅文・医学系研究科准教授 「高齢期における生活習慣病の重要性と課題」、第2回 山田純生・医学部保健学科教授 「暮らしの中で健康づくり」 第3回 島岡清・総合保健体育科学センター教授 「健やかで豊かな長寿のために」	6.11 (水)	中日 (朝刊)
87 三重県伊賀市の整形外科で、作り置き点滴を受け1人が死亡したことについて、太田美智男・医学系研究科教授は、「過去の院内感染の例を見ると、ほとんどが点滴剤を調剤する際、菌で汚染された消毒綿でビンの口などをふいたことが原因。大学病院では消毒綿は使い捨てだが、まだ作り置きしておく施設も多い」と話す	6.11 (水)	朝日 (夕刊)
88 「テクノ・フロンティアセミナー (TEFS) - 触れてみよう、電子と情報の最先端に」8月1日開催	6.12 (木)	中日 (朝刊)
89 吉田重方・本学名誉教授が、境川のデータを10年さかのぼって調べ直し、「境川健康診断-東郷町域」という報告書をまとめる	6.12 (木)	朝日 (朝刊)
90 あいち国文の会25日開催：岡山高博さん・本学大学院生が発表	6.12 (木)	中日 (夕刊)
91 伊藤好孝・太陽地球環境研究所教授は、7月22日に開催される名城大学の高校生講座で豆カミオカンデ作りを指導	6.13 (金)	読売
92 5月の地震：林 能成・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター助教	6.13 (金)	読売
93 ライトピア講演会「出会いとつばやきのホットカレッジーまちの中の居場所ー」～多世代の出会いと交流の居場所づくり事業～22日開催	6.13 (金)	中日 (朝刊)
94 故伏見康治・本学名誉教授 日本の原子力研究を導く	6.13 (金)	朝日 (夕刊)
95 訃報：天野政千代・文学研究科教授	6.14 (土)	中日 (朝刊) 他3社
96 中日新聞 高血圧セミナー「ウデをまくろう、東海！」5月10日開催：奥村健二・医学部教授	6.14 (土)	中日 (朝刊)
97 「政務調査費の情報公開を求める市民の会」（代表・水田洋・本学名誉教授ら）は、民主、自民、公明の市会議員団と名古屋市会自民党の4会派に対し、本年度から政調費を全面公開させるよう松原市長に要望	6.14 (土)	中日 (朝刊)
98 紙つぶて：福井康雄・理学研究科教授 名大サロン	6.14 (土)	中日 (夕刊)
99 岩手・宮城内陸地震 山岡耕春・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター教授は、「東北地方の陸地を載せたプレートの下に太平洋プレートが東から西に沈み込んでいるため、常に東西から力が加わっている。また今回の地震は東海地震とは違うタイプ」と指摘する	6.14 (土)	中日 (夕刊)
100 岩手・宮城内陸地震 山中佳子・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター准教授は、長さ40キロ、幅15キロの断層が最大3.9メートル動き、マグニチュードは6.9と解析	6.15 (日)	朝日 (朝刊) 他2社
101 ミクロの世界の不思議くつきり：改修工事も終わり展示内容を一新した博物館で、こども記者が電子顕微鏡で花粉やプランクトンの化石などを観察	6.15 (日)	中日 (朝刊)
102 書籍：「疑似科学入門」 総合研究大学院大学教授・池内了・本学名誉教授著	6.15 (日)	朝日 (朝刊)
103 叙位叙勲：正四位瑞宝中綬章 大橋勝・本学名誉教授	6.15 (日)	中日 (朝刊)

平成20年度名古屋大学公開講座

■全学企画

テーマ：「地球温暖化時代」に生きる

開講日時：平成20年8月19日(火)～10月9日(木)の毎週火・木曜日（祝日除く）

18:00～19:30

会場：名古屋大学シンポジオンホール

募集人数：200名（先着順）

受講料：9,200円

申込期間：平成20年7月1日(火)～8月15日(金)

修了証書：10回以上出席の方に修了証書を授与します。

後援：愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会

問い合わせ先：研究協力部社会連携課 TEL 052-788-6144



回	期日	テーマ	担当講師 所属・職名	氏名
1	8/19(火)	地球環境問題を考慮した熱帯における農業開発とは	国際開発研究科・教授	西村 美彦
2	8/21(木)	地球環境にやさしいテクノロジー	エコトピア科学研究所・教授	長谷川達也
3	8/26(火)	環境政策と経済：『市場の力』を低炭素社会実現の味方にできるのだろうか？	経済学研究科・教授	荒山 裕行
4	8/28(木)	京都議定書	環境学研究科・教授	竹内 恒夫
5	9/2(火)	温暖化防止のために何をすべきか	環境学研究科・教授	竹内 恒夫
6	9/4(木)	乾燥地と人類文明	文学研究科・教授	嶋田 義仁
7	9/9(火)	気候変動と森林／水循環	生命農学研究科・教授	太田 岳史
8	9/11(木)	温度と生物の活動・発生と関係	理学研究科・助教	久原 篤
9	9/16(火)	地球環境と資源・エネルギー	工学研究科・教授	成瀬 一郎
10	9/18(木)	地球温暖化は何故起こるのか	環境学研究科・教授	神沢 博
11	9/25(木)	気候モデルによる地球気候の再現と「予測」	環境学研究科・教授	神沢 博
12	9/30(火)	地球の気候・環境の歴史	環境学研究科・教授	井村 秀文
13	10/2(木)	地球温暖化時代の熱帯農業と国際協力	生命農学研究科・教授	浅沼 修一
14	10/7(火)	今何が起きているか	環境学研究科・教授	井上 元
15	10/9(木)	地球温暖化防止に向けての国際協力	国際開発研究科・教授	藤川 清史

※講師の都合又は天候により、一部日程が変更されることがあります。

■全学企画 ラジオ公開講座

テーマ：「地球温暖化時代」に生きる

開講日時：平成20年7月6日(日)～9月7日(日)の毎週日曜日 午前6:30～7:00

放送局：東海ラジオ放送(1332KHz)

問い合わせ先：研究協力部社会連携課 TEL 052-788-6144

回	期日	テーマ	担当講師 所属・職名	氏名
1	7/6(日)	地球環境にやさしいテクノロジー	エコトピア科学研究所・教授	長谷川達也
2	7/13(日)	京都議定書	環境学研究科・教授	竹内 恒夫
3	7/20(日)	温暖化防止のために何をすべきか	環境学研究科・教授	竹内 恒夫
4	7/27(日)	温度と生物の活動・発生と関係	理学研究科・助教	久原 篤
5	8/3(日)	地球環境と資源・エネルギー	工学研究科・教授	成瀬 一郎
6	8/10(日)	地球温暖化は何故起こるのか	環境学研究科・教授	神沢 博
7	8/17(日)	地球の気候・環境の歴史	環境学研究科・教授	井村 秀文
8	8/24(日)	地球温暖化時代の熱帯農業と国際協力	生命農学研究科・教授	浅沼 修一
9	8/31(日)	今何が起きているか	環境学研究科・教授	井上 元
10	9/7(日)	地球温暖化防止に向けての国際協力	国際開発研究科・教授	藤川 清史

■部局企画

講座名	内容	開催期間	会場	対象・定員	受講料	問い合わせ先
オープンカレッジ 自由奔放サイエンス	名古屋大学の各部局から10名の教員が、各自の研究テーマについて分かりやすく講演します。	9/6~3/14の土曜日 計10回 10:00~12:00	経済学研究科 カンファレンス ホール	高校生・中学生・ 社会人 200名	無料	大学院経済学研究科エクステンションサービス ecoextender@soec.nagoya-u.ac.jp
公開セミナー 「天文学の最前線」	第一線で活躍する天文学研究者が、「元素から生命へ」をテーマに分かりやすい講演と研究室紹介を行います。	8/23~8/25 10:00~18:30	IB 電子情報館 (8/23)、理学部 (8/25)、名古屋 市科学館(8/24)	300名 (高大生・教員優先、 研究室紹介は100名、 抽選あり)	無料 但し、資料代実費 1,000円(一般)、 500円(高大生)	大学院理学研究科 Ux 研 「公開セミナー」係(古澤) TEL: 052-788-6194
第6回モノづくり 市民公開講座 「電子回路工作・テル ミン」	楽しいモノづくり 一日大学体験 電子回路工作で不思議な楽器を作ろう!	8/7 10:00~16:30	創造工学センタ ー(IB 電子情報 館北棟10階)	中学3年生以上 10名程度	300円	大学院工学研究科創造工学セ ンター「モノづくり市民公開 講座」係 TEL: 052-789-3788,4553
三菱 UFJ リース寄附 講座 全学教養科目 「環境問題への挑戦 I・II」	グローバルに進行する地球環境問題 について体系的に理解を深めるため の講義等を行います。	〈前期〉4月~7月 (毎週火曜日)、 〈後期〉10月~1月 (毎週月曜日)	〈前期〉工学部4 号館3階講会議 室、 〈後期〉未定	一般市民 40名	無料	大学院環境学研究科大学院掛 TEL: 052-789-4272
地球水循環研究セン ター・公開講演会: 「水」と地球環境変化	地球環境変化が、地球表層の水循環 にどう影響を与えるのか解説します。	12/20 13:00~17:00	シンポジオン ホール	100名	無料	地球水循環研究センター・ 研究協力事務室 TEL: 052-789-3466,3459
アジアの新潮流-中 国とインド、そして...	中国・インドおよびその周辺に焦点 を絞り、途上国の社会経済の発展の 経緯・現状・今後の展望について講 演します。	10/7~12/9 (毎週火曜日) 18:30~20:00	大学院国際開発 研究科	一般市民 50名	7,200円	大学院国際開発研究科 TEL: 052-789-4952
健康開発のための 運動基礎理論 (実習含む)	運動指導のための基礎理論や実践に ついて学び、効果的な健康増進プロ グラムの企画・運営・実践指導に役 立てます。	11/8~11/9 10:00~16:00	名古屋大学内 (大幸キャンパ スを予定)	健康増進指導を専門 的に行っている職業 人	6,200円	総合保健体育科学センター kshima@htc.nagoya-u.ac.jp
柔道寝技教室	高専柔道で培われた三角絞や各種返 し技などの高度な寝技テクニック、 立ち技から寝技への移行技について 講習を行います。	9/13~10/18(毎週土 曜日、全6回)、 14:00~16:00	第4体育館(柔道 場)	柔道部に所属し本学 を志望する高校生、 高校柔道部の指導 者、本学学生・職員 で柔道経験者 20名	無料	総合保健体育科学センター 体育会・柔道部(担当: 瓜谷) TEL: 052-789-3797
公開講座2008 バイオサイエンス・ バイオテクノロジー を体験する	3つのコース「ヒトの培養細胞を用 いて生命の神秘を見てみよう」「自分 の遺伝子を見てみよう」「DNA で見 るメダカの地域差」により現代生物 学についての正しい知識が身につ きます。	8/2~8/3 10:00~16:00	生物機能開発利 用研究センター (講義室、各研究 室)	社会人、高校生以上 の学生 15名	2,500円	生物機能開発利用研究 センター TEL: 052-789-5194
市民公開講座「電気 でファッションラ イフ、あなたも今 日からエコロジスト!	電気への理解を深め、電気の大切さ を知り、日常生活の場で実践するよ う、「電磁環境」、「温暖化」(予定)な どをテーマに講演を行います。	前期・後期に各1回 (各1日を予定) 13:30~15:00	未定	100名	無料	エコトピア科学研究所エネ ルギーシステム寄附研究部門 (担当: 小島) E-mail:h-kojima@esi.nagoya- u.ac.jp
環境医学研究所市民 公開講座	「痛み」をテーマとし、数名の講師に よる講演、パネルディスカッション を行います。	10/18	野依記念学術交 流館	200名	無料	研究所総務課第二庶務掛 TEL: 052-789-3886
おもしろ博物学	博物学について、本学の最新の研究 成果を交えて学びます。	10/15~11/26(毎週 水曜日、全7回) 10:30~12:00	博物館講義室	60名	無料	名古屋市生涯学習推進 センター 八木様 TEL: 052-321-1571

※詳細はお問い合わせください。

■他機関との連携企画

連携先	講座名	開催期間	会場	対象・定員	受講料	問い合わせ先
東海テレビ放送 株式会社	名古屋大学 学びの秋講座	前期 9/13、14、21、28 後期 10/4、11、12、25 10:00~16:00	野依記念学術交流 館	前期・後期 各200名	前期・後期各20,000円 ただし本学学生・職員は 同窓生講座に限り無料	東海テレビ社会人フェローの会 TEL052-962-2080
NHK 名古屋文化 センター	大河講座「ひとの大学」	4/2~3/18 毎週第1及び第3水曜日 (8月・1月は休講) 全20回 18:30~20:00	IB 電子情報館大講 義室(一部工学部 4号館講会議室)	200名	一般31,500円、NHK文化 センター会員29,400円、 高校生無料	NHK 名古屋文化センター TEL052-952-7330

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

5月30日(金)～7月26日(土)

場 所：博物館展示室
時 間：10:00～16:00
休 館 日：日・月曜日
入場無料

第10回博物館特別展
「今に生きる、からくり人形
～ものづくりの源流と尾張文化の継承～」



[問い合わせ先]
博物館事務室 052-789-5767

7月16日(水)、9月3日(水)
場 所：IB 電子情報館
2階 IB 大講義室 (7/16)
工学部 4号館講義室 (9/3)
時 間：18:30～20:00
定 員：200名
受 講 料：一般 31,500円、
NHK 文化センター会員 29,400円、
高校生無料 (全20回)

大河講座「ひとの大学」
第一部・天の巻 われわれはどこから来たのか
7月16日
講演題目：「生命の進化 (仮題)」
講 演 者：西田佐知子 (博物館助教)
9月3日
講演題目：「生命の進化 (仮題)」
講 演 者：熊澤慶伯 (名古屋市立大学教授)



[問い合わせ先]
NHK 名古屋文化センター 052-952-7330

7月18日(金)
場 所：文学部 1階会議室
時 間：16:00～17:00
入場無料

名古屋大学英文学会公開講座サマーセミナー
講演題目：「テクスチュアル・ハラスメント
—文学批評を批評する試み—」
講 師：小谷真理 (SF & ファンタジー評論家)



[問い合わせ先]
文学研究科英米文学研究室
eibei@lit.nagoya-u.ac.jp
fax：052-789-2299

7月18日(金)、9月17日(水)
場 所：環境総合館 1階
レクチャーホール
時 間：18:00～19:30
入場無料

第41回、第42回防災アカデミー
第41回 (7/18)
講演題目：「三松正夫が種を蒔いた火山防災文化
—北海道・有珠山では何が行われてきたか—」
講 演 者：宇井忠英
(環境防災総合政策研究機構専務理事/
北海道大学名誉教授)
第42回 (9/17)
講演内容：「沿岸防災と海岸工学」
講 演 者：水谷法美 (工学研究科教授)



[問い合わせ先]
災害対策室 052-788-6038
taisaku@seis.nagoya-u.ac.jp
http://www.seis.nagoya-u.ac.jp/taisaku/

7月19日(土)
場 所：遺伝子実験施設
時 間：13:00～16:00
参加無料

遺伝子実験施設
第7回 Jr. サイエンス教室
「遺伝子を見てみよう」



[問い合わせ先]
遺伝子実験施設
山村佳実 052-789-3086

開催月日・場所・問い合わせ先等

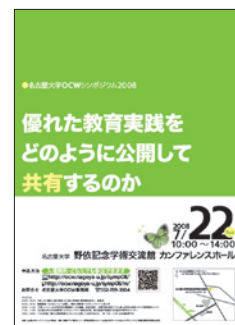
内容

7月22日(火)

場 所：野依記念学術交流館
時 間：10:00～14:00
入場無料
対 象：一般、近隣大学関係者

名古屋大学 OCW シンポジウム2008

テ ー マ：「優れた教育実践をどのように公開して共有するのか」
講 演 者：宮川 繁（マサチューセッツ工科大学教授）他



[問い合わせ先]

情報メディア教育センター OCW 事務室
山里/松村 052-789-3904

7月26日(土)、7月29日(火)、
8月12日(火)

場 所：博物館講義室
時 間：13:00～16:30 (7/26、8/12)
10:30～16:00 (7/29)

定 員：20名
対 象：小学5年生～高校生
参加無料

ミクロの探検隊

「レーベンフックの顕微鏡を作ろう」 7/26
「ムシを拡大しよう～はたらきと形」 7/29
「ホウサンチュウの形の不思議」 8/12



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

7月26日(土)

場 所：生命農学研究科附属農場内
農業館

時 間：14:00～16:00

定 員：60名

参加無料

生命農学研究科附属農場講演会

講演題目：「都市に融合する緑」
講 師：吉永美香（名城大学理工学部助教）

[問い合わせ先]

附属農場事務掛 0561-37-0210

7月28日(月)

場 所：名古屋大学上海事務所
時 間：10:00～12:00、14:00～16:00

国際言語文化研究科説明会 IN 上海

全 体 会 10:00～11:30/14:00～15:30
研究科概要ガイダンス、学びのガイダンス、大学院生とのクエスチョン・タイム
個別相談会 11:30～12:00/15:30～16:00

[問い合わせ先]

名古屋大学上海事務所
TEL・FAX：+86-21-62806185
office@nushanghai.net.cn

7月28日(月)～30日(水)

場 所：アメリカ・ノースカロライナ
州立大学

対 象：AC21参加大学学長又は副学長、
大学関係者、学生など

第4回 AC21国際フォーラム

テ ー マ：「大学間パートナーシップー21世紀のためのグローバルな
連携と革新」



[問い合わせ先]

国際学術コンソーシアム (AC21) 推進室
(国際部国際企画課国際総務掛)
052-789-5684

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

8月1日(金)

場 所：工学部
時 間：10:00~18:30
対 象：東海地区の高校生約30名
参 加 費：無料
申込締切：7月7日(月)

テクノフロンティアセミナー (TEFS)

一ふれてみよう、電子と情報の最先端にー

内 容：高校生向けに電子・情報の分野における大学レベルの最先端的工学のいくつかを実験によって体験するセミナーと、企業の先端施設の見学会を開催する。



[問い合わせ先]

工学部電気教室内 TEFS 実行委員会
052-789-3325 (早川)、5874 (小島)
nhayakaw@nuuee.nagoya-u.ac.jp (早川)
h-kojima@esi.nagoya-u.ac.jp (小島)

8月2日(土)~3日(日)

場 所：生物機能開発利用研究センター
時 間：10:00~16:00 (2日間)
対 象：社会人、学生 (高校生以上)
定 員：15名
受 講 料：2,500円
申込締切：7月4日(金)

生物機能開発利用研究センター

公開実験講座2008

「バイオサイエンス・バイオテクノロジーを体験する」

コ ー ス：「ヒトの培養細胞を用いて生命の神秘を見てみよう」
「自分の遺伝子を見てみよう」
「DNA で見るメダカの地域差」



[問い合わせ先]

生物機能開発利用研究センター
事務室 052-789-5194

8月2日(土)

場 所：ウィル愛知 (愛知県女性総合センター) 3階大会議室
時 間：13:00~17:00
入場無料

平成20年度名古屋大学 THP 市民公開講座

「尿失禁を知って、はつらつ人生」

特別講演：「尿失禁医療は今」
(後藤百万・医学部泌尿器科教授)
講 演：「女性泌尿器科ってなあに？ 尿失禁と骨盤臓器脱」
(加藤久美子・名古屋第一赤十字病院女性泌尿器科部長)
講 演：「自分でできる排尿ケア」
(西村かおる・日本コンチネンス協会会長)
実践報告：「始めましょう！骨盤底筋体操」
(矢萩美和・横浜元町女性医療クリニック LUNA)



[問い合わせ先]

医学部保健学科大学院 GP 事務室
鈴木重行 052-719-1362
榎原久孝 052-719-1923
thp@met.nagoya-u.ac.jp
http://hes.met.nagoya-u.ac.jp/THP/index.html

8月6日(水)~8日(金)

場 所：東山キャンパス
(医学部保健学科は大幸キャンパス)

オープンキャンパス2008

内 容：名古屋大学へ入学を希望する方々に、本学の教育研究の紹介や施設見学等を通じて、本学の特色やキャンパスの魅力をより深く知っていただくための企画です。

8月6日(水) 10:00~ 工学部
13:00~ 経済学部
8月7日(木) 13:00~ 法学部、情報文化学部、医学部医学科、農学部
8月8日(金) 13:00~ 文学部、教育学部、理学部
10:00~ 医学部保健学科 (大幸キャンパス)



[問い合わせ先]

学務部入試課 052-789-5765

8月6日(水)~8日(金)

場 所：理1号館
時 間：10:00~16:40
(8/8は~11:45)
対 象：高校生及び高校教員
定 員：約100名 (応募多数の場合は抽選)
参加無料
申込締切：7月18日(金)

平成20年度数学アゴラ (夏季集中コース)

内 容：数学とその応用に興味を持つ高校生および高校教員を対象とした講演会。

講 演：①「正多面体と群」
林 孝宏 (多元数理科学研究科准教授)
②「連分数の不思議な世界」
糸 健太郎 (多元数理科学研究科准教授)
③「図形をドミノで敷きつめる」
南 和彦 (多元数理科学研究科准教授)



[問い合わせ先]

多元数理科学研究科
小林亮一教授 052-789-5602

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

8月7日(木)

場 所：工学部
時 間：8:45～17:00
対 象：東海地区の高校生
定 員：約50名
参 加 費：無料

テクノサイエンスセミナー (TSS)

「大学の化学を体験しよう」

内 容：高校生向けに化学・生物工学の世界を体験します。

[問い合わせ先]

工学部化学・生物工学科
テクノサイエンスセミナー実行委員会
tss2008@chiral.apchem.nagoya-u.ac.jp

8月8日(金)

場 所：博物館野外観察園
時 間：13:00～17:00
定 員：20名
対 象：中学生～高校生
参 加 費：無料
申込締切：7月11日(金)

ひらめき☆ときめきサイエンス

～ようこそ大学の研究室へ～

KAKENHI

『葉っぱの上の謎の部屋、「ダニ室」から進化を探ろう』



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

8月9日(土)～10日(日)

場 所：名古屋市科学館、岐阜県飛騨地方
時 間：13:30～16:30 (9日)、
9:00～15:00 (10日)
定 員：30名
対 象：小学3年生～中学3年生と
その保護者
参 加 費：500円

第2回地球教室 (親子対象フィールドセミナー)

「砂金を見つけよう！」



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

8月19日(火)～9月27日(土)

場 所：博物館展示室
時 間：10:00～16:00
休 館 日：日・月曜日
入 場 無 料

第14回博物館企画展

「計算機シミュレーションで解き明かされる世界～計算科学の最前線～」

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

8月23日(土)

場 所：博物館講義室
入 場 無 料

第85回博物館特別講演会

講演題目：「さまざまな流れのシミュレーション」

講 演 者：石井克哉 (情報連携基盤センター教授)

講演題目：「コンピュータシミュレーションで魔球をつくる」

講 演 者：姫野龍太郎 (理化学研究所情報基盤センター長)

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

名大トピックス No.182 平成20年7月15日発行

編集・発行/名古屋大学広報室

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報室にお寄せください。

名古屋市千種区不老町 (〒464-8601)

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ

(<http://www.nagoya-u.ac.jp/topics/>) でもご覧いただけます。

表紙

愛知県芸術劇場において行われた第94回定期演奏会の様子 (名古屋大学交響楽団) (平成20年5月25日)



75 キタン会（経済学部同窓会）旧蔵資料

大学文書資料室は、約1,000点のキタン会旧蔵資料を所蔵し、一般の公開に供しています。

キタン会は、日本ではきわめて珍しい、社団法人格を持った名古屋大学経済学部の同窓会です。その歴史は古く、経済学部の前身にあたる名古屋高等商業学校(名高商)が設置された4年後の1924(大正13)年に、「其湛会」として発足しました。この会名は、名高商初代校長渡辺龍聖が、中国最古の詩集『詩経』の一節、「子孫其湛、其湛曰楽」（音楽をかなで酒を酌んで祖先を祀り、一族が集まって楽しむさま）から名づけたとされています。

其湛会は、戦後の1953(昭和28)年に社団法人となり、同年設立された経済学部同窓会啓友会とは別組織でしたが、69年に一本化して其湛啓友会となり、76年からはキタン会となりました。現在は1万400人の会員を有し(2005年3月現在)、名古屋を本部に日本全国のほか海外にも支部を持ち、キタン財団による助成事業や、戦前以来の歴史

を持つキタン新聞(月刊)の発行などの会員親睦事業をおこなっています。

キタン会旧蔵資料は、2005(平成17)年12月、キタン会事務所が東山キャンパスの経済学部校舎内に移転する際に寄贈を受けたものです。

この資料群には、日本有数の学部同窓会であるキタン会や、その中の卒業年別同窓会などの活動を記した貴重な記録(会誌、アルバムなど)をはじめ、経済学部の教員や卒業生の回顧録や著書も多く含まれています。中には戦前の名高商時代の資料もあります。キタン会の歴史はもとより、経済学部を中心とする名大と社会の関係を知るうえでも大変貴重な歴史資料となることでしょう。

目録データは、大学文書資料室 HP 掲載のオンライン検索システム(<http://nua.jimu.nagoya-u.ac.jp/search/>)から閲覧することができます。資料室にご来室のうえ、申請書をご提出いただければ、どなたでも閲覧することが可能です。



1 | 3
2 |

- 1 大学文書資料室の書庫に配架されたキタン会旧蔵資料
- 2 名古屋高等商業学校の卒業アルバム(いずれも戦前)どれも分厚く装丁も豪華(キタン会旧蔵資料)。
- 3 キタン会による「旧制名古屋高等商業学校(現名古屋大学経済学部)創立60周年記念大会」における祝賀会の様子(1980年10月5日)